

みんなの  
ための  
学校長会に

# 茨城県 学校長会広報

第250号

発行者  
茨城県学校長会  
会長 大塚 昌弘  
事務局  
〒311-1125  
水戸市大場町933-1  
教育プラザいばらき内  
☎ 029-269-1300  
FAX 029-269-1304

## 本年度の活動の方向性

特集

各部・各委員会の構想

新会員紹介



### 目次

- 表紙写真に寄せて……………1
- 会長挨拶……………2
- 令和三年度……………2
- 本年度の活動の方向性……………2
- 特集「各部・各委員会の構想」……………3
- 特別寄稿「質の高い教育の実現と管理職のリーダーシップ」……………4
- 課題「未来に向けた学校教育のあり方」……………6
- 茨城県学校長会基本方針及び第3期中期教育ビジョン……………7
- 市町村教育委員会と学校長会………9
- 提言二題……………10
- 経営研究「創意と活力に満ちた学校経営」……………11
- 特集「新会員の抱負」……………15
- 再任会員名簿……………30

### 笑顔あふれる学校を目指して

銚田・銚田北小  
中澤 浩

本校は地域の特色を生かし、様々な交流や体験を重視した教育活動を展開しています。縦割り班での異学年交流、高校生との田植え体験、中学生による本の読み聞かせやいも苗植え体験、幼稚園児への歯みがきアドバイスなど幼小中高交流が盛んです。また、収穫体験や野菜販売体験は地域の社会人講師や保護者の協力を得て実施しています。さらには、ICT機器を活用し、遠隔授業や一人一台端末の活用にも力を入れていきます。今後も職員一丸となって子供たちの笑顔あふれる学校づくりに尽力していきます。

未来につながる新しい

学校の姿を創造する

茨城県学校長会

会長 大塚 昌弘  
(水戸・三の丸小)

茨城県学校長会は、今年度、第3期中期教育ビジョンとして「働き方改革を実現し、新しい時代の教育を推進する」を掲げ、行政との連携を図り、学校の取組を充実させ、組織・運営の改善を図ることで活動目標の達成を目指してまいります。当初、令和元年度から今年度までの三年間としていた活動目標を、コロナ禍により、令和四年度までの四か年で取り組むことと修正いたしました。

正解のないコロナ禍の対応は、これまで学校の働き方改革で改善が図られなかった学校の「当たり前」を根底から考える絶好の機会となりました。

教育力を下げずにいかに、時間外勤務を削減できるか、本来の目的を再確認し、最適な手段を再構築することで、従来の取組を見直し、新たな発想で改善を図っていくことが重要です。

組織力を向上させながら、同僚性を高め、全教職員の知恵と経験をフルに生かし、未来につながる新しい学校の姿を創造できると考えます。

本年度の活動の方向性

学校・家庭・地域がそれぞれ

の役割を十分に果たしながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた子供たちの育成に取り組む中、茨城県学校長会は、「理念も実践も兼ね備えた有言実行の教育専門家集団」として、教育の中心的な役割を担う組織としての自覚のもと、活動を推進していく。

学校において、私たち校長は、トップリーダーとして明確なビジョンを示し、具体的な実践と検証を重ねながら、創意と活力に満ちた学校経営に努め、学校からの教育改革を推進することで、県民の信頼と期待に応えなければならぬ。

茨城県学校長会は、教育基本法を踏まえ、先達が築いてきた精神と業績を継承するとともに、英知と情熱を結集して、基本方針と第3期中期教育ビジョンに示した今年度の活動目標の具現化に努める。

【令和3年度に向けて】

- 学校のニューノーマルの構築（ポストコロナによる新たな学校創りへ）
- 令和の日本型学校教育の構築（中教審答申に基づく新たな学校創りへ）

理念実現の方策	教育観の転換
① 新学習指導要領の確実な実施	① 同調圧力からの解放
② 個別最適な学びと協働的な学びの実現	② 正解主義からの脱却
③ 一人一台端末による授業改善	③ 二項対立からの離脱
④ 学校における働き方改革の推進	

校長のリーダーシップ、覚悟、決断が一層問われる時代

- 校長自身が「学び続ける教師」を体現する必要
- 目前の課題に追われてしまうことなく、先見性と展望が必要
- 組織力を向上させ、人材育成を図りながら教職員を生かす必要

【今年度の重点】

＜第3期中期教育ビジョン＞  
～「働き方改革」を実現し、新しい時代の教育を推進する～

《視点1》 行政との連携	《視点2》 学校の取組	《視点3》 組織・運営の改善
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育諸条件の整備と充実のための人事配置や施設設備等に関する連携・提案の策定</li> <li>○ 各種研修会や募集事業の精選等、業務改善に向けた調整・連携の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校の危機管理体制の強化</li> <li>○ 勤務時間に関する意識改革</li> <li>○ 組織運営体制の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 働き方改革実現に向けた研究協議会の改善・充実</li> <li>○ 委員会の統合、会議回数削減等、組織及び運営の見直しの推進と検証・改善</li> </ul>

# 各部・各委員会の構想

## 小学校部会



### 校長のリーダーシップが一層問われる時代に

部会長 大塚 昌弘  
(水戸・三の丸小)

これからの予測困難な社会を生きる子供たちには、自ら変化を創り出す力をつけ、正解のない課題に立ち向かい、他者と協働しながら最適解や納得解を生み出す力が求められています。

策が、これまで変えたくても変えられなかった学校の「当たり前」を変えるチャンスとなり、前例にとらわれない発想で学校は大きく変わりました。

こうしたことから、今年度の全国連合小学校長会は、研究主題に「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を掲げ、必要な資質・能力を育む学校経営の提言及び実践に努めることとしました。

令和3年度も、ポストコロナによる新たな学校経営は続くこととなります。いずれは終息することを願っていますが、終息後もせつかく改善できたことを以前に戻すことなく、学校のニューノーマルを定着させながら新たな発想で学校を創っていくことが求められます。

さて、昨年度はコロナ禍により、正解のない問いに、校長を中心として話し合いを重ね、最新の情報を収集し、他校と連携を図りながら、その時点で最良と考えられる対応を判断し、実践してきたこととします。正に、予測困難な中での決断でありました。しかしながら、コロナ対

それと併せて、今年一月に中教審から出された答申「令和の日本型学校教育」の構築についても同時に考えていくこととなります。今回の答申は、一六年度の文科大臣からの総合諮問に対する答申であり、確実な浸透と実践が求められます。この二つのことを考えながら、

## 中学校部会



### 令和時代の創意ある学校づくりを目指して

部会長 内田 和子  
(水戸・第一中)

新たな学校を創っていくためには、次々と出てくる目の前の様々な課題に対応しながらも、今後の時代を見据え、広く社会の現状を見極めることが必要です。また、組織力を高め、人材育成を図りながら教職員を生かすとともに、校長が「学び続け

る教師」を身をもって示すことも必要です。さらに、学校の現状を把握し、教職員が安心して子供たちに向き合える環境も整えなければなりません。いずれにせよ、校長のリーダーシップ、覚悟、発想力が一層問われる時代になったと言えます。

コロナ禍の中での学校運営も二年目に入りました。感染の状況等、その時々に応じて学校としての判断を下し、迅速に対応してこられた皆様に心から敬意を表します。

五月中旬にオンラインで開催された全日本中学校長会理事会において、「新型コロナウイルスから一年経過後の学校経営」をテーマに、学校が抱える課題や工夫ある取組について情報交換を行いました。特に、コロナ禍の中で「GIGAスクール構想」が急激に進展したため、学校現場の対応が追いついていない状況等が課題として多数報告されました。「令和の日本型学校教育」に関する答申で示され

未だコロナ禍で先が見えない状況が続きますが、学習指導要領が全面实施となった今年度、喫緊の課題である働き方改革を進めながら、カリキュラム・マネジメントを充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に努めていか

なければなりません。 五月中旬にオンラインで開催された全日本中学校長会理事会において、「新型コロナウイルスから一年経過後の学校経営」をテーマに、学校が抱える課題や工夫ある取組について情報交換を行いました。特に、コロナ禍の中で「GIGAスクール構想」が急激に進展したため、学校現場の対応が追いついていない状況等が課題として多数報告されました。「令和の日本型学

た「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現のためにも、学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠です。そのICTを効果的に活用するためには、学校設備や人的支援の整備、教員の指導スキルの向上、さらには自宅学習での端末を「持ち帰り」できる環境の整備等、これまで以上に行政と連携しながら進めていく必要性を強く感じました。

その実現のためにも、茨城県中学校長部会として、皆様の英知を結集し、課題解決のために共に力を合わせていきたいと思えます。

なお、今年度、六月開催予定の関地区中新潟大会はオンライン開催、十月開催予定の全日中静岡大会はハイブリッド開催（リアル参加とオンライン参加）となりました。昨年度は関地区中、全日中の二大会とも中止となりましたが、今年度は、オンライン開催等ではあります。他の都道府県の取組について学ぶ機会ができました。良いと思われることはどんどん取り入れ、令和時代にふさわしい創意ある学校づくりを目指していきたいものです。学び続けることにかけては生徒たちには負けられません。

特別寄稿



質の高い教育の実現と  
管理職のリーダーシップ

教育庁学校教育部義務教育課

副参事 田 辺 光 博

先生方におかれましては、コロナ禍の中、日々の感染症対策をはじめ、一人一人の子供たちによりそった教育活動に取り組みんでいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、昨年の小学校に続き、本年度は中学校において新学習指導要領が全面实施となりました。一人一台端末と通信ネットワークの整備も完了し、学校には、これまで以上に、子供たち一人一人に応じた、質の高い教育の実現が求められております。県教育委員会では、昨年十一月に、今後目指すべき授業の在り方、子供たちの学びの姿を、「新しい時代における子供たちの学びのスタイル」としてまとめ、各教科等において育成を目指す資質・能力を明確にしながら、学びの方向性やイメージをお示しいたしました。各教科等には、学習指導要領で示されたそれぞれのねらいがあり、そのねらいを達成するための有効な手段として、今後、一人一台端末を活用していかなければなりません。

しております。

まず、「個別最適な学び」については、「指導の個別化」と「学習の個性化」の二つに整理した上で、「指導の個別化」は、一定の目標を全ての子供たちが達成することを指して、特性や学習進度等に応じ、異なる方法で学習を進めることであるとしました。一方、「学習の個性化」については、子供たち一人一人が異なる目標に向けて学習を進め、広げることであり、ともに、子供が自己調整をしながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性を指摘しております。

こうした中、各学校が、これまでの実践・蓄積を活かしつつ、さらに、新しい学びのスタイルへの転換を図るためには、管理職のリーダーシップが大変重要です。特に、一人一台端末を活用して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が効果的・効率的に進められるようにするためには、「学校組織マネジメント」の視点を踏まえた施策の推進が何よりも求められます。今年一月に示された中教審答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指しては、新学習指導要領の着実な実施において、

○これまでの実践とICTとを最適に組み合わせ、教育の質の向上につなげることの必要性  
○ICTの活用については、PDC Aサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行うこと  
○ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意する等ICT活用に関する基本的な考え方が示されております。  
また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を次のように定義

○これまでの実践とICTとを最適に組み合わせ、教育の質の向上につなげることの必要性  
○ICTの活用については、PDC Aサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行うこと  
○ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意する等ICT活用に関する基本的な考え方が示されております。  
また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を次のように定義

行 財 政



第3期中期教育ビジョン  
の具現化を目指して

委員長 海野 隆

本委員会は、行財政上の諸問題に関する調査と研究を行い、「教育行政に関する要望書」を作成し、学校長会として県教育委員会教育長へ提出する活動を行います。

二 活動内容

(一) 教育課題解決のための諸施策に関する調査研究

- ① 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びのために
  - ② 学校の組織の充実と活性化を図るために
  - ③ 充実した教職生活の実現のために
  - ④ 感染症対策に伴う学校の新しい生活様式のために
  - ⑤ 本県教育の一層の充実・発展を図るための市町村当局への助言について
- ※全小・中・義務教育学校の校長・教諭を対象にアンケートを実施する。

(二) 県への要望

- ① 全校長等のアンケート結果を分析し、要望書を作成し、要望活動を行う。
- ② 義務教育課との合同検討会により、要望内容の明確化と進捗状況の確認を行う。

一 組織

委員長 海野 隆(水赤塚中)

- 副委員長 志賀 正章(水常磐小)
- 副委員長 蓮沼 邦彦(水笠原中)
- 幹 事 千ヶ崎高志(水柳河小)
- 同 鴨志田 泰(水下野小)
- 委員代表 内野 輝彦(鹿大野中)
- 同 茂木 政則(行玉造小)

法 制



「学校長必携(第三十六集)」の発行に向けて

委員長 小沼 信行

本委員会は、学校運営上の法的問題に関する調査研究を行い、教職員の法的意識の向上と円滑な学校運営に資することを目的としています。

本年度は主に「学校長必携(第三十六集)」の発行に向けて活動していきます。

そして、次年度の「学校運営必携十三訂版」の発行に向けて準備を進めていきます。

また、教頭会とも連携しつつ、法制に関する研修を効果的に推進していきます。

一 組織

委員長 小沼 信行(不) 齋藤 副委員長 柏葉伸一郎(行) 麻生小

幹事 蛭原 浩一(取) 取手 中 江幡 和代(永) 堀原小

同 塚谷 千穂(石) 吉屋小 同 小委員 関 美智子(常) 大賀小

同 八重樫弘子(高) 秋山小 同 原田 純一(鹿) 鹿島中

同 村田 則文(つ) 柳橋小

二 活動内容

(一) 学校長必携(第三十六集)の発行

(二) 「学校運営上の諸問題」の調査・研究

(三) 法制に関する合同研修

三 活動計画

(一) 委員会(五月・二月)

・組織づくり

・活動内容及び事業計画の検討

・今年度事業反省

・次年度の活動計画の検討

(二) 小委員会・ブロック別委員研修会(六月〜十月)

・学校運営上の課題とその回答の検討

・「学校長必携(第三十六集)」編集作業

(三) 教頭会法制部との連携による「学校運営のための法制問答集」の編集と発行

・学校運営上の諸問題について県教育庁学校教育部義務教育課による指導・助言

急激に変化する時代の中で、教育を取り巻く情勢の変化や今日的な課題に、より適切に対応するためには一層の調査研究の継続発展が重要です。全ての児童生徒の安心安全と教職員の的確な対応へ向け、十分な成果が得られるよう努めてまいります。

調査研究



新しい時代の教育を推進するための調査活動

委員長 浅川 晃

本委員会は、教育における今日的課題等について県内各校の調査を行うことにより現状を把握し、県学校長会が課題解決に向けて提言・活動等を行うための資料として、調査結果を提示することを主な目的として活動しています。

今年度は第3期中期教育ビジョン(修正四か年計画)の三年目として、前年度までの調査結果と比較検討し、実効性のある「働き方改革」の実現に向けて研究を推進していきます。

各調査の結果は、各学校の経営や業務の改善に生かせるように還元します。

また、各学校の「特色ある教育活動」への取組を調査し、相互に参考にできるように結果を公表し、各学校の教育活動や研究の改善、活性化の一助としていただく活動も行っていきます。

一 組織

委員長 浅川 晃(永) 内原中 副委員長 萩谷 正教(栗) 栗東中

同 篠塚 一典(潮) 牛堀小 同 五十嵐伸治(阿) 本郷小

同 中川 孝志(五) 五葎東小

小委員 河西 勲(天) 天竺小 同 佐川 拓(北) 北郷小

同 倉橋 孝一(神) 神野東小

同 豊嶋 正臣(平) 中根小

同 小林 智(舌) 駒込小

幹事 玉井 康浩(不) 不器義登

同 松下由美子(那) 木崎小

二 活動内容

(一) 第3期中期教育ビジョンの重点目標である「『働き方改革』の実現」に向けた勤務時間に関する意識調査の

実施・分析、及び基礎資料の作成

・小・中各四〇校計八〇校を抽出して実施

(二) 「特色ある教育活動」の調査とwebページへの掲載

(三) 勤務実態に関する調査の継続実施と分析・考察

・十月における超過勤務時間数等の調査

(四) 全連小・全日中の各種調査への協力等

・調査依頼校の選定

・調査用紙等の集約と報告

・研究校便覧掲載校の推薦

※本年も各種調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

広 報



会員相互の交流の場に

委員長 成田 悦子

広報委員会は、会員相互の情報共有化を図るとともに、学校現場で直面している課題の解決に役立つ会報の作成に努めてまいります。

幹事 浅野 尚子(東) 茨小 校正委員 折本 正巳(永) 内原小

同 山形 信幸(那) 横堀小

同 後藤 順子(久) 幸西中

一 組織

委員長 成田 悦子(永) 大場小 副委員長 橋本 浩志(永) 赤坂小

同 皆川 修(ひ) 外野小

同 米川 貢喜(神) 植中

同 神取 克英(潮) 見出小

同 中田 和彦(王) 神立小

同 遠藤 貞(北) 平潟小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

同 阿部 裕美(栗) 西小

小委員 大高 穂子・牛久小

同 高野香保里(守・大野小)

同 井元 潤一(か・志筑小)

同 川嶋 圭介(稲郡・安中)

同 綱川 真理(舌・大野小)

同 永盛 弘資(下・駿ノ木)

同 柳田 高志(筑・古里小)

同 坂入 俊夫(桜・大和中)

同 飯田 典子(猿・五箇小)

二 活動目標

(一) 学校長会の第三期中期教育ビジョン(修正四か年活動目標)並び活動方針、事業等の周知

(二) ひばり・梅のかおり欄を通して、会員相互の情報交換を図り、連帯感(われら意識)の高揚を推進する。

(三) 特集、特別寄稿等を通して、各学校の取組や市町村教育委員会との連携について紹介するとともに、各専門委員会の状況を掲載し、情報の共有化を図る。

三 発行計画及び内容

(一) 二五〇号(七月)  
〔令和三年度の活動の方向、各部、各委員会の構想、新入会員紹介〕

(二) 二五一号(十一月)

〔特色ある学校経営、創意を生かした特色ある教育課程〕

(三) 二五二号(二月)

〔危機管理体制の整備と学校安全の確保、新年度に備えて〕

(三) 掲載内容の検討と定期更新の推進

(四) 「各ブロック・支部」「各委員会」等の資料や活動の成果の掲載

三 活動の重点

(一) 各専門委員会との連携・協力、掲載する内容の許諾及び個人情報保護のためのパスワードの有効設定

(二) 過去の情報に関する掲載内容の精選

(三) コロナ禍などで出張や研修等の制限があるなかでの、オンラインによる会議や動画配信の有効活用

四 活動計画

(一) 活動内容の具現化のため、Webページ運営委員会を随時、オンライン等で開催・Webページ更新に係る規則や組織、更新方法の確認についての検討

・掲載内容の確認、今後の方針について

(二) 令和三年度の事業の反省及び、令和四年度の計画案の作成

・更新情報の周知方法等

・今後の本委員会の組織づくりに関する検討

・会員がWebページを開いて閲覧する機会を多くするための方策

Webページ運営



新たな一歩を

委員長 鈴木 睦

副委員長 田村 俊之(桜・嶺西中)

同 山田 岳男(鹿・中野東小)

幹事 高島 幸浩(巨・釜小)

同 菊地 耕龍(城・城西中)

小委員 稲野辺秀久(示・双葉小)

二 活動内容

(一) Webページを活用した会員のための情報発信

(二) 教育プラザWeb管理委員会との連携

一 組織  
委員長 鈴木 睦(示・飯富小)

課題



未来に向けた  
学校教育のあり方

県学校長会副会長 鈴木 穂  
(常陸太田・太田小)

本年度、中学校において新学習指導要領の全面実施が始まり、義務教育九年間の未来志向の教育が開始された。未来社会は先端技術等が発展し、予測困難な時代になるといわれている。また、未曾有の新型コロナウイルス感染症の拡大など、先行き不透明な未来を子供たちがどのように生き抜いていくかが問われている。そこで、このような時代に立ち向かうためには、解決すべき課題を見つけ、多様な価値観をもつ他者と協働し、解決へ導き、持続可能な社会のよりの創り手となるよう、教育によってその資質・能力を育成することが求められており、新学習指導要領の趣旨を実現していくことが肝要となる。

しかし、学校の現状を見てみると、子供への躰をはじめとする学校の役割の拡大、学力向上、多種多様な保護者への対応、いじめ・不登校等の生徒指導諸問題への対応、学習機会と学びの保障など課題は山積している。加えて、これらすべてを教師の情熱と使命感で対応している。教師は疲弊しており、教師の働き方改革も問題となっている。この状況でも教師たちは子供のためにという思いをもって教育活動を展開し、世界でも高水準の成果につながっている。このことから、新学習指導要領の実現には「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(令和三年一月二六日中教審答申)に示されているように、いままでの学校教育の蓄積を生かして、「個に応じた指導」を学習者の視点からの「個別最適な指導」と「協働的な学び」として一体的に充実していくことがカギを握る。

本校では、未来の予測困難な社会を想定し、物事の道理を判断し、筋道を立てて計画し、処理する力を身に付け、身に付いた知識や技能を活用して、新たなものを創造していく能力(知恵)に着目した。そのためには従来の「知識獲得中心」の学習から「物事をじっくり考え、活用する」学習への転換と指導時間の確保が不可欠となった。そ

して、身に付ける資質能力を明確にしたうえで、単元型学習指導の実践を行っている。この実践を通して、子供一人一人の実態を基にした子供の反応を予測し、支援策を考える「指導の個別化」を行っている。また、子供のひらめきを生かしながら学習活動を行わせ、集団思考へとつなげ、自己の高まりを実感させる「個別最適な学び」へと進めようとしている。この取組を通して、既習事項を活用し、新たな価値を創造することで、子供の見方・考え方が豊かになることが分かった。しかし、研修時間の確保など働き方改革の必要性が課題となった。

働き方改革については、年々教職員の意識は高くなってきているものの、行動につながっていない状況である。働き方改革への課題は教職員の意識改革、環境整備、行事等の見直しなど様々であるが、保護者や地域への啓発が一番難しい。市町村教育委員会と連携し、よりよい啓発を行うことが望ましいと考える。

子供一人一人の可能性を引き出し、持続可能な社会のよりよい創り手となる子供の育成のために教師たちが知恵を出し合い、取り組むことを期待したい。

## 茨城県学校長会基本方針及び第3期中期教育ビジョン（修正4か年活動目標）

### 1 基本方針

※ これまで取り組んできた精神と業績を継承し、茨城県学校長会の方向性を示したものです。

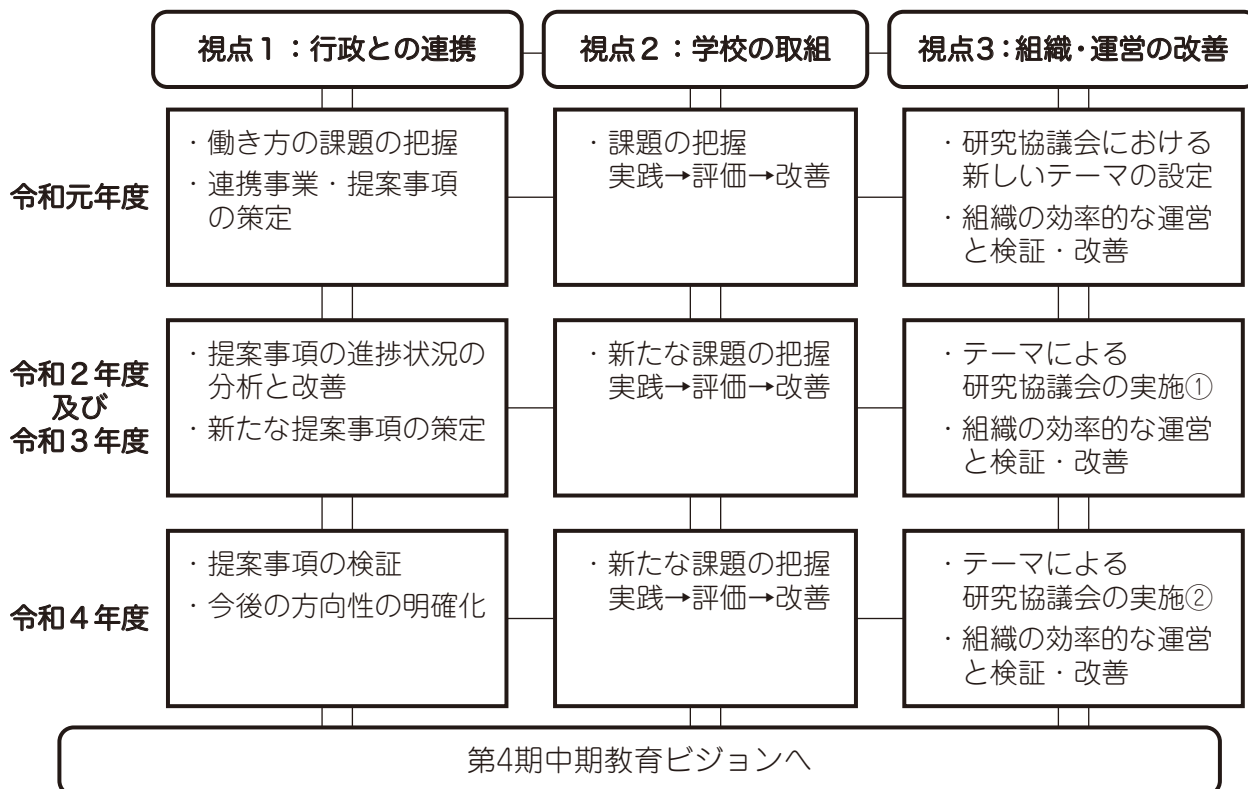
- 1 学校からの教育改革を目指す学校経営の推進
- 2 学校経営の質を高める研究の推進
- 3 茨城県学校長会の組織運営の活性化
- 4 教育諸条件の整備
- 5 関係機関・団体との連携強化

### 2 第3期中期教育ビジョン

※ 基本方針を受けた「3か年活動目標」であり、茨城県学校長会の各組織（専門委員会や支部学校長会）間で連携した活動を通して、校長一人一人の参画型の取組を推進し、結果として「われら意識」を高めていけるよう工夫するためのビジョンです。

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により十分な取組が難しかったため、2年次にあたる令和2年度の取組を令和3年度も継続し、「4か年の活動目標」として再編成、実施することとしました。

○ 「働き方改革」を実現し、新しい時代の教育を推進する



### 3 施策

※ 基本方針，中期教育ビジョンを受けて3つの視点により，4年間で取り組む具体的内容です。  
 (★：本年度の重点，○：第2期より継続，●：第3期より新規)

#### 視点1（行政との連携）

- 少人数指導教育（少人数学級）の調査研究（注1）
- 教職員定数，学級編制等の改善についての調査研究
- 勤務時間等に関する調査と適正化に向けた茨城県教育委員会等との共同研究の継続
- 茨城県教育行政機関，教育関連機関との連携や情報交換
- ★● 教育諸条件の整備と充実のための人事配置や施設設備等に関する連携・提案の策定
- ★● 各種研修会や募集事業の精選等，業務改善に向けた調整・連携の策定

#### 視点2（学校の取組）

- 教職員の資質能力の向上と人材育成
- ★○ 学校の危機管理体制の強化
- 新しい教育制度や新学習指導要領を踏まえた学校経営の推進
- ★● 勤務時間に関する意識改革
- ★● 組織運営体制の改善
  - 学校行事等の精選及び運営の効率化
  - 関係機関・団体による支援体制の確立

#### 視点3（組織・運営の改善）

- ブロック協議会及び小・中学校部会の活性化による情報共有と行動連携（「われら意識」の高揚）
- ★● 働き方改革実現に向けた研究協議会の改善・充実
- ★● 委員会の統合，会議回数の削減等，組織及び運営の見直しの推進と検証・改善

#### その他

- 全国連合小学校長会，全日本中学校会，茨城県教育研究会及び茨城県小中学校教頭会等との連携強化
- 子ども支援茨城連絡会との連携活動の強化（注2）
- 教育振興大会の開催と教育の充実に関する世論の喚起

（注1） 「少人数指導教育」とは，一学級35人以下の「少人数学級」及び特定の教科における「少人数指導」の両面での取組を目指すものです。茨城県学校長会においては少人数学級について調査研究を推進するものです。

（注2） 「子ども支援茨城連絡会」とは，教育関係23団体で構成される全国組織「子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会」の下部組織であり，現在のところ，本県では茨P連，茨城県学校長会，茨教組の三者で構成されている子供を支援する連絡会です。



# 市町村教育委員会と学校長会

## 鹿嶋市

### 鹿嶋市教育委員会との連携

鹿嶋・三笠小  
箕輪 直

本年度は、すでに参加している県立高校附属中学校長に加え市内の私立中学校長も加わり新鹿嶋市校長会がスタートした。本市校長会は、小学校十二校中学校七校の計十九校で組織されている。

- ひとりひとりの能力を開発し確かな人間性をつちかう
- 健康と安全の確保に努め活力のある心を育てる
- 郷土の理解を深め郷土を愛する心を養う

毎月開催される定例校長会では、教育長、教育部長、教育指導課長、教育センター長の同席のもと、指導助言をいただきながら、本市教育の充実に向け教育的課題を協議したり、各校の取組などの情報交換等をしていたりしている。

本市において取り組んでいる

様々な施策の中から三点を紹介する。

### 一 働き方改革への取組

優秀な人材の確保が教育の質を担保することに繋がる。そのために働き方改革は、喫緊の課題である。本市では、退勤シフトの導入や閉庁日の拡大等の改善が行われてきた。本年度は各学校で実践している取組を共有するとともに、教育委員会と連携・協力しながら学校が担っている業務の見直しも含め、業務削減を目指していく。

### 二 GIGAスクール構想の推進

本市では、各学級一台の電子黒板、一人一台の学習用端末(Chromebook)、学校内にWi-Fiの環境整備を整え、すぐに活用できるように市内全教職員が教育用PCのPD(Professional Development)研修を実施した。

児童生徒の端末は家庭での活用ができるよう、持ち帰っている。それにより学校での学びのスタイルが大きく変わるだけでなく、家庭でも学校との連絡方法や学習方法に変化が見られる。今年度は、これらの「IC

T環境」をどのように使いこなしていくかが鍵となる。教育委員会との連携と併せて、各校のGIGAスクール推進リーダーを中心に、より一層の推進が図れるように努めていく。

### 三 コミュニティ・スクールの進展

昨年度より、学校と地域の連携を強化した新しい学校運営協議会を市内全小中学校に設置した。目的は、地域に愛され地域に信頼される学校教育を進めていくためである。今年度はコミュニティ・スクールとしての機能、在り方を考える年にするとともに年間活動計画の作成等も行っていく。今後も、市校長会として教育委員会と連携を強化しながら鹿嶋市の教育の充実や学校経営に努めていきたいと考えている。

## 取手市

### 未来を拓く、豊かなこころと個性を育む 市教育委員会との連携

取手・取手西小  
小林 正雄

取手市学校長会は小学校十四校、中学校六校の計二十校で組

織されている。二〇校の校長が各校のよさを生かしつつも市全体として

「一人一人が輝く」

活力ある学校づくり

「自主性・自立性を育み、

次世代を拓く児童生徒

の育成」

を目標に学校経営に当たれるよう、「チーム取手市学校長会」として毎月定例での学校経営研修会の他、必要に応じて臨時学校経営研修会も開催し、その都度、教育長・教育部長・教育参事・指導課長等から指導・助言をいただいている。

本市では、令和二年四月より「全員担任制(中学校)・チーム指導(小学校)」「教育相談部システム」「二期制の導入」を「取手市の新しい学校教育三つの取組み」として策定し取り組んでいる。

特に全員担任制(中学校)・チーム指導(小学校)を柱とし、児童生徒一人一人を複数の教職員で丁寧に見守り、より多くの教職員で情報を共有することで児童生徒誰にとっても安心できる教育環境となるよう、市学校長会と市教育委員会が一体となり推進している。

その取組として主だったものを以下に紹介する。

①市教育支援センターに新たに

学校連携支援員、スーパーバイザー、心理・福祉の専門家を配置した。また、教員とスクールカウンセラーの増員を行い、これまで以上に児童生徒が抱える課題を早期に発見し、的確に対応できるチーム支援体制を構築した。

②各校では、いじめの未然防止・早期発見だけでなく、不登校児童生徒の減少を実現するため、組織的な対応がスムーズに行えるよう、教育相談体制の充実を図っている。

③市教育支援センターでは、児童生徒の小さな変化をどのようにに捉え、どのように共有・対応していくか、いじめ問題への組織的な対応や不登校児童生徒への支援の在り方などについての教員研修を推進している。

これらの取組についてはさらなる充実が求められており、今後も市学校長会として市教育委員会との連携を深めながら、確かな学力、健やかな身体だけでなく、豊かなこころと自分らしさに自信をもって個性を發揮できる「とりでの子」を育んでいきたい。



提言二題

「手間・暇・愛情を  
かけましよう！」



取手市PTA  
連絡協議会会長  
角田 知巳

ニコニコちゃんでごんには。茨城県の南口、取手市取手駅の駅前にある、取手市立白山小学校の会長を務めています。角田知巳です。よろしくお願いいたします。

最初、会長職の依頼があったときは、皆さんに迷惑をかけないかと心配でしたが、会長就任三年目になり、迷惑をお掛けしながらも何とか職務を遂行しています。

現在のコロナ禍の中、子供たちには多大な規制をかけてしまいい、なんとも申し訳ない気持ちでいっぱいになります。「他に出て来ることはないのか？」役員の皆様と知恵を絞り、校長先生や教頭先生と協議しながら、できる限り子供たちに思い出をたくさん残してあげたい、そんな思いで活動しています。

集団での活動は規制されていますが、リモートワークが増え

た分、ご家庭で子供たちと接する時間が増えたと耳にすることがあります。親からしたら面倒が増えると感じるかもしれませんが、子供たちからすれば嬉しいことかもしれません。仕事が減り、経済的にそれほどでもないという状況下の方もおられるかもしれません。しかし、これを機に今一度家庭を振り返り、子供と関わる機会にしたいとは思っています。

よくPTA活動のお話を新入生の保護者の皆様の前でするときに、私はこんな話をさせていただきます。

「草花や果物などは水をあげていれば勝手に育つわけではありませんが、時には枯れてしまい、実がならない時もあります。皆様の大切なお子様は当然ご家庭では沢山の手間・暇・愛情を注いでいることと思います。その手間・暇・愛情をかける時間を学校でのPTA活動にも少し分けて頂きたいと思えます。PTA活動は面倒くさいものではなく、私は手間・暇・愛情をかける時間だと捉えています。磨けば磨くほどより光り輝く子供たちにするために、是非ともこの趣旨にご理解ご賛同を頂き、役職をお引き受けくださるようお願い致します。」

こんな具合です。

こんな話にご理解をいただいているかは分かりませんが、白小では多くの保護者の皆様のご協力を得て、楽しく子供たちをサポートする活動をしています。

子供たちも増え、仕事も忙しかった高度成長期と違い、現在は少子化が進む中で、子供たちとの関わり方も変化してきているのではないかと考えます。むしろ保護者ももっと積極的に子供たちと関わることもできる環境になつてきているとも感じます。

「学校に行くのが楽しい」と、子供ばかりでなく大人も感じられる、そんな活動をしていけるよう努力してまいります。

子供たちのための  
PTA活動



五霞町PTA  
連絡協議会会長  
岡野 悦子

平成三二年度、娘の中学校入学から二年間PTA副会長を務めました。そして本年度、五霞町PTA連絡協議会の会長を務めさせていただきます岡野悦子と申します。まだまだ不慣れではございますが、宜しくお願い致します。

日頃より、校長先生をはじめ

先生方、各学校関係者の皆様には、子供たちのために熱心にご指導いただき、またPTA活動にもご協力いただき、誠にありがとうございます。

二年前、PTA副会長に決まったときは、私にできるのだろうか：正直とても心配で、不安な気持ちでした。でも私の場合は、PTA会長、本部役員の先輩方に恵まれて、不慣れな私に分かりやすく説明してもらったり、じっくり話し合う時間をとってもらったりできました。

意見を申し合ひ、アドバイスをいただき、これまで楽しく活動できました。本部役員になりPTA活動に関わって感じたことは、子供たちのために、子供たちが安心・安全に、楽しく学校生活を送れるようにPTAは活動しているのだということです。

本部役員は大変だという言葉が耳にしますが、具体的に詳しくPTA活動を知ってもらい、子供たちのための活動と理解してもらうことは、これからも必要なのではないかと思えます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により社会状況が変化し、学校が休校となり、学校生活にもかなり影響がありました。PTA活動においても事業を中止することになり、コ

ロナ禍において密を避けるため、本部役員が集まり、話し合う機会もなくなりました。通常通りの学校生活やPTA活動ができなくなりました。子供たちは学校が休校になり、登校できないことと、登校できてもほとんどの学校行事が中止になっていることから、とてもつらい一年間だったと思います。

本年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大しても、学校は休みにならず、学校に登校することができ、授業を受け勉強することができています。学校生活において、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、アルコール消毒など、子供たちの体調管理をしながら先生方が子供たちのための学びと学校生活を支援して下さっているおかげです。昨年は実施できなかった学校行事も、今年は先生方が様々な形で努力して下さるおかげで実施できています。行事を通して成長している子供たちの姿を見られることは大変幸せなことだと実感しております。

コロナ禍において、なかなか通常通りのPTA活動は難しいのですが、子供たちが安心・安全に楽しい学校生活を送れるように、考え、知恵を出し合い前向きに取り組みたいと思えます。



## 創意と活力に満ちた 学校経営

一人一人が「輝く」  
学校づくりを目指して

那珂郡・東海中  
森島 義範

本校は、昭和三十三年に石神村と村松村の組合立として発足した学校で、「東海」の名は徳川齊昭の側近であった藤田東湖の歌にある「卓立す東海の浜」にちなんでいる。石神村と村松村が合併する際、東海中学校の名をもとに村名を東海村とした。生徒数五四二名、教職員数五〇名、創立七四年を迎える、村民の思いの詰まった学校である。

### 一 本校の現状

五〇〇名を超える生徒が在籍しているが、全体的に落ち着いており、何事にも前向きに取り組んでいる。また、異学年交流を積極的に行っており、相手の立場を考え、思いやりの気持ちをもって接していく中で、温かな人間関係やリーダー性等を育てている。その一方、教師から

の指示を受けてから行動したり、自分の考えや行動に自信がもてなかったりと、主体性や自己肯定感を高めていくことが課題となっている。

教職員は、平均年齢が三四歳と若く、教職員の大半は二〇〇四〇代の若手・中堅教員である。大変活気があり、日々の教育活動に熱心に取り組んでいる。ただ、本校が一校目である若手教員も多く、ミドルリーダーと若手教員の育成が課題となっている。

### 二 本年度の学校経営

本校の現状を踏まえ、本年度の学校経営のポイントとして、生徒に対しては「自分の言動に自信をもてること」、教職員に対しては「中堅教員を活かし、教職員の資質能力を高めること」が重要であると考えた。生徒とともに教職員にも学び続けることの大切さが浸透し、教職員の成長と生徒の成長は連鎖していることを教職員が意識し、相互が成長し「輝ける」こ

とを目指し、取り組んでいく。

(一)方針と組織目標の共通理解  
学校経営の方針については、学校経営案とランドデザインを教職員に提示し、共通理解を図った。その際、組織目標については、全教職員から意見を募り、決定した。

#### 【学校教育目標】

「知性を伸ばし、豊かな感性を培い、たくましく生きる力を育てる（自立）」

#### 【具体的な施策】

「明るく学ぶ東海中」「思いやりがある東海中」「挑戦する東海中」を基盤に、「楽しく分かる授業」「思いやりにあふれ、規律がある学校・学年・学級」目標に向かい頑張る集団」を推進する。

#### 【組織目標】

「生徒が主役となり、活躍する場を多くする」  
授業では、教師が「教える」から生徒が「学ぶ」へと、授業における主語が、教師ではなく生徒となるように授業を改善していく。  
行事では、生徒が企画・運営に携わったり、生徒の思いを汲んだり、生徒主体の活動となるように進めていく。

そして、生徒が自分の活動を振り返った時に、自分の活躍ぶりやよさを実感し、自己肯定感を高められるように努めていく。さらに、全教育活動において「生徒が主役になれる」ように教師の関わり方を工夫するなど、教師のコーディネート力を高めていく。

#### (二)教職員の資質能力の向上

（学び続ける教職員集団）

#### 【校務分掌の工夫】

学年主任や副主任、生徒指導主事、研究主任など、学校運営の主要なポジションに中堅教員を配置し、職務を通してリーダーとしての資質を高められるようにしている。

#### 【ピンポイントの職員研修】

研究主任から提示された研修計画をもとに、毎月ポイントを絞って研修に取り組んでいく。研修内容としては、クラス会議の進め方、授業づくり、ICT活用、板書の工夫などである。

#### 【校長室だよりによる伝承】

週一回程度、校長室だより「校長のつぶやき」を発行し、日々の取組に対する校長の気付きや思いを伝達するとともに、先輩教員から学んできたことを伝承することで、教職員の学ぶ意欲

を喚起し、資質能力向上の一助としていく。

(三)生徒主体の縦割り団活動  
本校の自慢できる取組の一つに、縦割り団活動がある。これは、三年生をリーダーとした異学年交流活動である。主に体育祭に向けての取組が中心となるが、生徒のアイデアを活かした企画・運営となるよう、教員はサポートに徹し、生徒とともに活動する。活動を通して、相手の立場を考えた言動により、温かな人間関係を構築していく。また、集団の一員であることの自覚により、協力し合う心やリーダー性を育成していく。そして、振り返りにより、達成感を味わい、自信がもてるようになる。その積み重ねにより、自



体育祭での縦割り団の様子

己肯定感を高めていく。

三 終わりに

生徒と教職員がいつも「笑顔」でいられ、みんなが成長し「輝く」ことのできる学校づくりに全力で取り組んでいきたい。

「自立貢献」を目指した磨き合い響き合い、高め合う笑顔あふれる学校づくり

行方・玉造中  
山野 稔

一 はじめに

本校は、茨城県の東部に位置し、近くには霞ヶ浦があり自然豊かな地域にある。現在の玉造中学校は、昭和三八年に旧玉造中と現原中が統合して創設された。平成二〇年には、同敷地内に建設された新校舎に移転し、今年度、創立六〇周年を迎える。生徒数二八九名、通常学級八学級、特別支援学級四学級、計十二学級の中規模学校である。また、平成二六年に五つの小学校が統合して創設された近隣の玉造小学校とは、一小一中の関係であり、市が主体となつて小中一貫教育を推進している。玉造小学校は、学力向上・生徒指導・特別支援教育に関して目指す子供像を共有し、情報交換を

密にして、共通理解のもとで教育活動に取り組んでいる。

二 目指す学校・生徒の姿

教育目標を「自立貢献」とし、人の役に立つ喜びを実感できる生徒の育成に向け取り組んでいる。学校は子供ありきという考えのもと、教育方針を「生徒が主役」とした。生徒一人一人のよさを教師が認め、それを教育活動の中で生かす仕掛けをし、生徒に自信をつけさせること、それが生徒の生きる力につながると考えている。組織目標を「磨き合い響き合い高め合う笑顔あふれる学校づくり」とし、「磨き合い」を「学力向上」に、「響き合い」を「居場所づくり絆づくり」に、「高め合い」を「本物に触れる体験の充実」にそれぞれ関連付けることによりキーワードの意識化を図った。

三 本校の特色ある主な取組

(一)【磨き合い】学力向上の取組

玉中メソッドによる授業改善 玉中メソッドとは、相互授業参観による本校の授業改善の取組である。生徒が意欲的に取り組む、「できた・分かった」と実感できる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、「評価からの授

業改善」という視点で研修をしている。異教科・異学年担当者で四つのチームを編成し、月一回の授業研究を行い、一年間で全員が提案授業を行うというものである。指導案の共同立案と授業後の研究協議を行い、チームリーダーが、研究協議の司会を務める。リーダーが司会を務めることで、話合いの視点やまとめ方を学び、授業力の向上に繋げるリーダー育成を兼ねたねらいがある。また、生徒には、生徒自身が見通しをもって学習に取り組むことができるように、話し合う場面を明示した学習計画表を配付するとともに、学年スペースに掲示している。

(二)【響き合い】居場所づくり・絆づくりの取組

「話合い活動」を教育活動全体の中心に位置付け、道徳や学級活動を始めとする全ての教科領域で毎時間話合い活動による対話型の授業を実践する取組を行っている。「居場所がある」姿を、「自分が学級内で認められている姿」とし、「絆がある」姿を「学級や学年内で生徒同士が助け合える関係にある姿」としてゴールイメージを共有して取り組んでいる。また、毎週金

曜日の朝に全校一斉で時間を設定し、提示した一つのテーマについて班ごとに話合い活動を行っている。これらの活動を通して、互いの思いや願いを知ること、また、互いの意見を交流することで異なる意見の存在を認め、その上で合意形成をするという体験を重ねることをねらいとしている。この体験が自己肯定感や自己有用感を高め、学校が居場所になることと仲間との絆を深めることに繋がると考

(三)【高め合い】本物に触れる体験の充実

本物に触れる体験とは、授業に専門家をGTとして取り入れていくことや感動体験を共有する取組である。具体的な取組として、一つ目には、「行方市の



子どもを使ってタブレットを使いながら意見交流している様子

四 おわりに

本校に赴任して二か月が経過した。教育目標「自立貢献」の実現に向けた取組は始まったばかりである。コロナ禍にあり、感染症対策をしながらの生活が続き、様々な制限のある中で教育活動を余儀なくされている。そんな中にあつても、个性的で明るく元気な生徒たちと理解のある保護者の皆様、学校のために惜しみなく力を貸してくださる地域の方々、生徒の成長を一番に考え、一人一人に寄り添い粘り強く関わっている頼もしい教職員とともに「今年だからできること」に目を向け、新

しい発想と行動力をもって学校経営に取り組んでいきたい。

### 夢を語り学びをつなぐ 学校づくり

龍ヶ崎・久保台小  
松島 正典

本校は龍ヶ崎ニュータウンにあり、平成八年に松葉小の分離により開校した二六年目の学校である。学校の目の前にはマンション群が立ち並び、学区のほとんどは新興住宅地となっている。開校当初は、児童数五〇〇名を超える学校であったが、現在の児童数は三〇二名の規模校となっている。

龍ヶ崎市では、小中一貫教育推進事業を展開している。本校では、中根台中学校、駒馬台小学校と連携し、小中一貫テーマ「夢を語り学びをつなぐ学校づくり」を掲げ、三校共通の学校教育目標「主体的に未来を切り拓く、生きる力を身に付けた児童生徒の育成」を目指し、学校経営に当たっている。三校共通の具体的施策は、「やさしさアッププラン」「学力アッププラン」「元気アッププラン」に基づき、各校で実践されている。この三

つのプランの中から、本校の取組事例を紹介する。

#### 一 やさしさアッププラン・龍の子人づくり学習の推進

「龍の子人づくり学習」とは、龍ヶ崎版小中一貫教育の根幹となる学習カリキュラムである。その内容は、義務教育九年間を見通した「ゆめ学習」と「みらい学習」で構成されている。「ゆめ学習」は、学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させることで、学ぶ意欲を向上させること、望ましい勤労観・職業観を育てること、社会的・職業的な自立を促すことをねらいとしたキャリア教育である。

「みらい学習」は、よりよい社会の実現のために必要な市民としての資質・能力を育てること、社会の中で円滑な人間関係を築くために必要な能力を育てることをねらいとしたシティズンシップ教育である。

本校では、中根台中学校区龍の子人づくり学習プログラムに則り、「龍の子人づくり学習ノート（キャリアパスポート）」を活用しながら、各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動において横断的に授業実践に当たっている。毎月の職員会議で

は、実践の評価及び次の計画を確認しながら、共通理解のもと取り組んでいる。また、市内各校の実践事例は共有化されており、教材を自校化する際の参考となっている。

#### 二 学力アッププラン・一人一台端末を活用した授業づくり

GIGAスクール構想により、本校でも、昨年度末に一人一台のタブレット端末が配備された。ここで課題となるのは、教員のICTスキルの格差である。授業者が同一歩調で活用していく体制を構築しなければならぬ。

そこで、今年度はタブレット端末の使用に長けた若手教員を研究主任、新採教員を情報教育主任に抜擢した。研究推進委員会では、今年度



龍・流連携事業  
タグラグビーの授業の様子

の研究テーマを「一人一台端末を活用した効果的な指導の在り方」とし、若手教員を中心に研究がスタートしたところである。

研究は、年六回の研究授業と、教員のスキルアップ研修を柱に取り組みこととした。研究授業では、タブレット端末の活用が効果的であったか、他の学習活動に生かせないかといった視点で研究協議を実施している。また、教員のスキルアップ研修では、研究主任自ら講師を務めたり、外部講師を招聘したりして効果的な活用法を学んでいる。

現在、日常の教室訪問で授業の様子を観る限り、どの学級もタブレット端末を活用した授業が頻繁に展開されている。

#### 三 元気アッププラン・龍・流連携事業の活用

龍ヶ崎市では、教育・文化、スポーツ、産業、人づくり・街づくり等の各分野において、地元にある流通経済大学と連携したまちづくりを展開している。

本校では、龍・流協定に基づいた「ボランティア学生小中学校派遣事業」を活用し、体育関係の行事や授業で大学生に協力をいただいている。

昨年度は、コロナ禍により運

動会、持久走大会が低中高学年ブロックの分散開催となった。ブロック開催で教員の係員が不足する中、児童の誘導や審判などを大学生に補助していただいた。大学生の協力なしには、実現できなかった行事である。また、三年体育の授業では、ラグビー部の学生を講師に招いて、タグラグビーを実施した。元気いっぱい楽しく学習する姿が印象的であった。

この事業の活用は、教員の働き方改革にもなっており、今年度も継続していく予定である。

#### 四 おわりに

本年度の組織目標は、「夢に向かって努力する、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」とした。「自分には夢がある」「学校が楽しい」、そんな児童を育てていきたい。そして、「教師も児童も明るい笑顔」を合い言葉に、中根台中学校区の三校が連携し、子供たちの夢の実現に向けて一丸となって取り組む教師集団を目指して、学校経営に当たっている。



生徒の自主・自律を育む  
学校経営を目指して

吉河・総和中  
吉田 浩康

本校は古河市の旧総和地区に位置する伝統ある中規模校である。学区には五つの小学校があり、中学校から新たな交友関係を築くことになるなど、心機一転挑戦ができる環境であるとともに、激しい変化に柔軟に対応することも求められる。

一 本校の課題

授業離脱や反社会的な生徒はほとんど見受けられず、現在は落ち着いている。しかし、不登校生徒が年々増加していることと、「自分の力で社会を変えられるか」という生徒アンケートでは「変えられる」という肯定的な意見が少ないことから、「学校を生徒にとって心の居場所にする」「社会を自ら切り拓く存在である」と実感させる「ことが課題となっている。

二 本年度の学校経営

本校の課題解決のため、「自主・自律」自ら考え、判断し行動できる生徒」と学校教育目標を定めた。自らの経験を通して身に付けた力こそが、その後の

人生で生きていく力になるからである。具体的には以下のよう  
な実践を通して「自主・自律」を  
育んでいる。

(一) 自律した学習者の育成

～単元テストの導入～  
従来の中間・期末テストでは生徒の取組がいわゆる、詰め込み式の学習、その場しのぎの学習になってしまい、知識・技能が定着しないことが多かった。こうした生徒の学習への取組を変え、単元テストを取り入れた。単元テストによってテストの回数は増えたが、学習する範囲は狭まり、焦点化された。つまり、生徒にとっては「何を学習したか」が明確になり、教師にとっても「何を習得させるべきか」がはっきりしたことで、より計画的な授業づくりができるようになった。

また、二ページと定めていた自主学習のページ数を廃止することで、生徒は自分のペースで、自分の好きな学習に取り組むようになり、自律した学習習慣を徐々に身に付けてきている。

(二) 生徒主体の授業

～授業における教師の役割の改善～

県学力定着度調査や全国学力学習状況調査などから、本校生徒は「資料を活用する力、思考・判断・表現する力、根拠を基に自分の考えを書く力」に課題があることが分かった。そのため、見方・考え方を働かせる指導を研究主題とした。具体的には教師は授業中に生徒の意見を「引き出す・つなぐ・戻す」という役割を担うことを基本とし、それを受けて教師は発問や問い、手立てを吟味・精選して授業に臨んでいる。授業アンケートによると、「主体的に学習に取り組んでいる」という意見が多くなってきた。



1人1台端末の活用シーン

(三) チーム道德

～全員担任制による考える  
道德へ～

本校では学年職員がローター

ションを組み、全てのクラスの道德を担当している。これにより、生徒は教師の様々な人生観や価値観に触れ、自分を見つめ直す機会を得ることができている。また、教師にとっても自分の能力や専門性を最大限に生かせる題材を選択できるので、自信をもって授業ができるようになった。

(四) トラブルを学びに変える生徒指導

～対立から生徒の思考を育む～

これまでの生徒指導は「起こさない」という未然防止に力を入れてきた。もちろん、生命の危機や緊急的な対応が必要な場合や、事故が予想される場合には、未然防止や強い指導は必要であるが生徒が直面する問題に悩むことや生徒同士が対立することは、学校においては普通のことであり、必要な経験でもある。そのため、生徒指導上のト  
ラブルは「起こるもの」として捉え直し、トラブルから生徒に何を学ばせるか、ということを生徒指導の方針としている。生徒に、自分に起きたトラブルを「どう解決したいのか」を考えさせ、生徒自身で判断・行動さ

せる。これにより、自分の感情のコントロールと他者理解という、社会生活にとって必要なスキルを伸ばしている。

(五) 自分を見つめる奉仕活動

～縦割り班による黙働自問  
清掃～

生徒会を中心にどうすれば全校生徒が清掃を創造的に取り組むかを考えさせるところ、「黙働」で取り組むことに行き着いた。また、社会にでると多様な集団で生きていくことになるので、清掃時は一～三学年の縦割り班を作り、その班ごとに清掃場所を分担した。つまり、一年生が三年生の教室を清掃することもある。普段行かない場所や話さない生徒と関わる環境を意図的に設けることでより自主的な活動になった。本校の清掃活動を通して社会に奉仕する心が育つことを期待している。

三 おわりに

中学校の役割は社会に出たときに激動の世の中をたくましく生き抜く力の基礎を養うところだと思っている。生徒一人一人が自分の将来を思い描き、幸せな人生を送ってくれることを願ってやまない。

中央

水戸市  
笠間市  
ひたちなか市  
常陸大宮市  
那珂市  
小美玉市  
東茨城郡  
那珂郡  
久慈郡

生きる力を育む創意と  
活力に満ちた学校経営

新会員の抱負



水戸・吉田小  
井坂眞理子

朝「衆思を集めて群力を宣ぶ」と斉読する児童の声が教室から聞こえてきます。個性を最大限に生かし、力を合わせて伸びていくという弘道館の教えは今も受け継がれています。この良き伝統を大切にしながら「夢に挑戦し、未来をたくましく切り拓く吉田の子の育成」を目指した学校づくりに努めてまいります。



水戸市小規模特認校として、  
ICTを活用した教育を推進し、  
市内全域から入学が可能な本  
校。地域の文化財「みろくばやし」  
を守り続ける本校。多くの魅力  
ある下野小学校に赴任できた  
喜びとともに、その職責の重さ  
を実感しています。「自ら進んで」  
のスローガンのもと、子供たち  
の笑顔輝く学校を目指します。



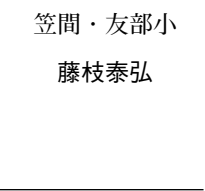
水戸・下大野小  
鴨志田泰

本校は、平成二八年に「国田義務教育学校」としてスタートし、六年目を迎えます。豊かな自然環境に囲まれた「さわやか国田学園」（通称）は子供たちの笑顔あふれる学校です。「一人一人が幸せな学校」を目指し、教職員・家庭・地域が一体となって、様々な教育活動に取り組んでまいります。



水戸・国田義務  
玉井康浩

友部小学校は創立二七年を迎える歴史と伝統のある学校です。感性豊かな子供たちと何事も真剣に取り組む教職員の姿に感えなければと、責任の重さを感じています。本校の教育目標である「よく学び心豊かな心身共にたくましい児童の育成」の達成のため、保護者・地域の皆様と共に一丸となり取り組んでまいります。



笠間・友部小  
藤枝泰弘



水戸の市街地に位置する児童  
数四五二名の石川小学校。保護  
者や地域の方の学校教育活動に  
対する協力体制に感謝しながら  
日々勤務しています。「一人一  
人の夢を育み、個性を伸ばす教  
育の推進に努める」を教育目標  
に掲げ、地域とともにある学校  
づくりを目指し、教職員一丸と  
なつて取り組んでまいります。



水戸・石川小  
田崎博文



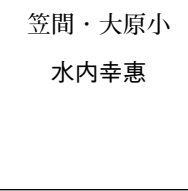
水戸・笠原中  
蓮沼邦彦

団結「一つになる」を合い言葉に、素直で明るい生徒たちと意欲的な教職員とともに「更なる高みを目指して」チーム笠原がスタートした喜びと職責の重さを実感しています。学校と地域の連携・協働の基盤ができてくる強みを活かし、地域と一体となつて特色ある学校づくりを全力で取り組んでまいります。



水戸・菅原中  
菅谷和幸

自然豊かなこの地で、明るく素直な二三四名の子供たちと共に勤務できることに、喜びとともに職責の重さを感じています。い（いつも明るいあいさつで、何事にも全力で取り組む）・だ（誰にも優しい稲田っ子）を合い言葉に、学校と家庭、地域が手を取り合つて稲田っ子の育成に全力で取り組んでまいります。



水戸・菅原中  
菅谷和幸

歴史と伝統のある大原小学校に勤務できる喜びとともに職責の重さを実感しています。素直で元氣な子供たち、穏やかで何事にも真摯に向かう教職員、温かく応援してくださる保護者や地域の方々と共に、「一人一人が輝く学校―よさを認め合う―」を合い言葉に力を合わせて、学校経営に努めてまいります。

歴史と伝統のある大原小学校に勤務できる喜びとともに職責の重さを実感しています。素直で元氣な子供たち、穏やかで何事にも真摯に向かう教職員、温かく応援してくださる保護者や地域の方々と共に、「一人一人が輝く学校―よさを認め合う―」を合い言葉に力を合わせて、学校経営に努めてまいります。

歴史と伝統のある大原小学校に勤務できる喜びとともに職責の重さを実感しています。素直で元氣な子供たち、穏やかで何事にも真摯に向かう教職員、温かく応援してくださる保護者や地域の方々と共に、「一人一人が輝く学校―よさを認め合う―」を合い言葉に力を合わせて、学校経営に努めてまいります。

歴史と伝統のある大原小学校に勤務できる喜びとともに職責の重さを実感しています。素直で元氣な子供たち、穏やかで何事にも真摯に向かう教職員、温かく応援してくださる保護者や地域の方々と共に、「一人一人が輝く学校―よさを認め合う―」を合い言葉に力を合わせて、学校経営に努めてまいります。

歴史と伝統のある大原小学校に勤務できる喜びとともに職責の重さを実感しています。素直で元氣な子供たち、穏やかで何事にも真摯に向かう教職員、温かく応援してくださる保護者や地域の方々と共に、「一人一人が輝く学校―よさを認め合う―」を合い言葉に力を合わせて、学校経営に努めてまいります。



笠間・友部二小  
持丸正美

明るく元気な子供たちと温かな地域の方々に迎えられ、友部第二小学校に勤務できることに大きな喜びを感じております。

学校経営目標「明日の待たれる豊かな学校づくり」を目指し、教職員一丸となって学校経営にあたりまわります。子供たちの「笑顔」と「ありがとう」があふれる学校を目指します。



笠間・みなみ学園義務  
野尻秀子

今年度、本校は、施設分離型から施設一体型義務教育学校に生まれ変わりました。義務教育学校だからこそできる取組として、弾力的な学年区分の設定や早期の教科担任制、部活動の導入等を行い、子供たちの個性や能力を最大限に伸ばすとともに、九年間つながりのある教育を進めてまいります。



ひたちなか・佐野小  
篠原みち代

本校のシンボルすずかけの木とヒマラヤスギと一緒に、毎朝八・四名の子供たちを迎えます。創立一四八周年の歴史と伝統ある佐野小に赴任できた喜び

と、職責の重さを実感しております。大規模校であっても、一人一人の児童を見つめ、児童と保護者教職員の笑顔があふれる学校経営に努めてまいります。



ひたちなか・那珂湊一小  
篠崎昌子

創立一四八年、爽やかな海風を感じる豊かな自然に恵まれ、地域とともにある本校に赴任することができ、喜びとその職責の重さを感じております。明るく元気で素直な子供たち、熱意ある教職員、温かく協力的な保護者・地域の皆様と手を携えて、笑顔があふれる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



ひたちなか・那珂湊三小  
小林健一

創立二二七年を迎える歴史と伝統のある那珂湊第三小学校に勤務できる喜びとともにその職責の重さを実感しております。

「豊かな心をもち 意欲的に学び考える 心身ともにたくましい児童の育成」に向け、教職員、保護者、地域と共に、通って楽しい「笑顔あふれる学校づくり」を目指してまいります。



ひたちなか・勝田二中  
高木克己

創立七〇年目を迎える節目に、歴史ある勝田第二中学校に勤務できます喜びと職責の重さを感じています。元気で好奇心旺盛な六六七名の生徒とやる気に溢れた四二名の教職員と共に「夢、感動、笑顔」に満ちた、生徒一人一人が輝く魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。



ひたちなか・田彦中  
飯村祐一

閑静な住宅街に囲まれ、格調高く近代的な校舎が聳え立つ本校も、本年度創立三〇周年を迎えます。「夢をはぐくみ 志をもつ」を教育の指針に掲げ、礼儀正しく誠実な生徒、向上心と活力のある教職員、心温かな保護者や地域の方々と共に、一人一人がキラリと輝く魅力ある学校づくりを推進してまいります。

閉居から海が見える高台に建つ創立七五年の歴史と伝統をもつ那珂湊中学校。活気溢れる生徒、やる気に満ちた教職員と共に、勤務できる喜びを感じています。笑顔と協働を胸に、新たな時代を担う生徒たちの健やかな成長のために、教職員一丸「チーム湊」で、笑顔溢れる学校づくりに邁進する覚悟です。



ひたちなか・那珂湊中  
豊田敬慈

久慈川の清流と緑豊かな環境に恵まれた本校は、創立一三五年を迎えます。六〇名の児童は、大賀の宝として保護者や地域の方々に温かく支えられています。小規模校の強みを最大限に生かし、児童一人一人のよさを引き出しながら、教職員一丸となつて笑顔あふれる学校づくりに取り組んでまいります。



常陸大宮・村田小  
松崎英政

明治六年開校、歴史と伝統があり、素直でやさしく、助け合う子であふれた村田小学校に勤務することができ喜びと職責の重さを実感しています。

コロナ禍にあっても、教職員・保護者・地域が一体となつて子供の成長を考えることのできる学校づくりに精一杯取り組んでまいります。



常陸大宮・大賀小  
関美智子

久慈川の清流と緑豊かな環境に恵まれた本校は、創立一三五年を迎えます。六〇名の児童は、大賀の宝として保護者や地域の方々に温かく支えられています。小規模校の強みを最大限に生かし、児童一人一人のよさを引き出しながら、教職員一丸となつて笑顔あふれる学校づくりに取り組んでまいります。





常陸大宮・美和小  
関 和子

その名のとおり、美しい自然と和な環境に生まれ、素直で伸び伸びとした子供たちの集う美和小学校に勤務できることの幸せと、その職責の重さを感じております。教職員、保護者、地域の方々との「和」を大切に、児童一人一人が、夢に向かってチャレンジする学校づくりに努力してまいります。



那珂・横堀小  
山形信幸

歴史と伝統のある横堀小学校で勤務できる喜びと職責の重さを感じています。二四二名の素敵な子供たち、温かく協力的な保護者や地域の方々、熱意と使命感にあふれた教職員と共に「自主性・自立性を育み、学びの楽しさを味わえる、安全・安心な学校づくり」に全力で取り組んでまいります。



那珂・菅谷東小  
沼田義博

「和顔愛語」、この言葉子供たちや保護者の方々、先生方と向き合う心構えとして大切にしています。かつて恩師から頂いた言葉です。穏やかな心持ちで、常に笑顔と温かい物言いや態度で過ごすことで、自他共に幸せな気持ちで過ごせるといふ仏教の教えです。そのような者在りたいと心から思います。



那珂・瓜連中  
長山達也

小中一貫教育の姿「つながるく友・教師・地域の方々」が体現できる環境（明るく素直な生徒、情熱をもって一緒に活動する教職員、瓜連中の教育を支える地域の方々）に恵まれています。予測困難な社会でも目標をもちたくましく生き抜く生徒の育成を目指し、教職員と共に全力で取り組んでまいります。



小美玉・堅倉小  
大関律子

校庭の樺の大木と美しい校舎に迎えられ、「目で稼ぎ、耳で稼ぎ、足で稼ぐ」という先輩の教えを胸に、課題を見つけ解決のために力を尽くそうと決意を新たにしました。子供たちの健やかな成長のため、熱心な先生方、協力的な地域の方々と共に、よりよい学校づくりに努めてまいります。



東茨城・長岡小  
白石靖弘

創立一四九年、伝統ある茨城町立長岡小学校の明るく元気な児童と長岡幼稚園の園児、温かく学校を支えてくださる保護者や地域の方々に囲まれて勤務できる喜びとともに、職責の重さを実感しています。やる気に満ちた教職員と一丸となり、子供たちの成長のため精一杯努力してまいります。



東茨城・青葉小  
飯塚眞久

素直で明るく元気な五一〇人の児童、子供の成長を心から喜ぶ教職員、学校を温かく支えてくださる保護者や地域の方々と共に青葉小学校の教育活動に携われることに感謝と責任の重さを感じています。社会の一員として力強く、楽しく生き抜ける子供の育成に全力で取り組んでいきます。



東茨城・常北小  
園部ゆかり

自然豊かで心温かな地域に育まれた明るく素直な子供たち、前向きに子供と向き合う教職員に出会えた喜びとともに、職責の重さを感じています。子供たち一人一人が夢や希望に向かって伸びていけるよう「子供が主役、明日が楽しみになる学校」を合言葉に全職員と心を一つにして取り組んでまいります。



那珂郡・舟石川小  
大津 崇

明るく素直な児童とやる気に満ちた教職員と共に勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。子供たちが「やさしく、かしく、たくましく」成長できるように、明日が待たれる笑顔あふれる学校づくりに教職員・保護者・地域の皆様の力を結集し全力で取り組んでまいります。



那珂郡・村松小  
橋本典子

夏は蛍が見られる自然豊かな学校です。素直で明るい子供たちと前向きで熱心な教職員。そして温かい地域の方々。創立四〇周年を迎える村松小学校に赴任し、喜びとともに責任の重さを感じています。「みんなが主役」を合い言葉に、一人一人が活躍できる学校を目指して努力してまいります。



那珂郡・東海中  
森島義範

創立七四年の歴史と伝統、最新の施設と設備を整えた東海中学校に勤務できる喜びと重責に、身が引き締まる思いで一杯です。素直で前向きな生徒たちの「笑顔」のために、家庭や地域の方々との連携を大切しながら、「生徒が主役となり、活躍する学校づくり」を教職員一丸となって推進してまいります。



久慈・さはら小  
黒羽 敦

三校が統合し、各校の伝統を受け継いださはら小学校に赴任し、喜びと職責の重さを実感しております。学区には茶畑が広がり、家庭・地域が一体となり子供たちを育む素晴らしい環境です。力のある教職員集団を創り、子供たちの「いきいき」をより開花させるため、一丸となって取り組んでまいります。



久慈・大子西中  
後藤順子

美しく雄大な自然の中で、エネルギー溢れる生徒と共に学校生活を送ることができていることに大きな喜びを感じています。生徒を第一に考え行動する熱意ある教職員、いつも学校を大切に考えてくれる保護者・地域の方々とともに、「自らを高め、共に生きる生徒の育成」に全力で取り組んでまいります。



久慈・生瀬中  
坏 文央

全校生徒二八名、教職員一四名で今年度をスタートしました。「夢・笑顔・感動に満ちあふれる学校」を合言葉に少人数ならではの教育に、生徒・保護者・地域、そして、我々教職員が一丸となって取り組んでいます。生徒・教職員が活躍できる場を大切に、居心地のよい学校づくりに努めます。

県北

日立市  
常陸太田市  
北茨城市



日立・河原子小  
石井邦典

東に太平洋を臨む素敵な環境の中、素直な児童、理解ある保護者、協力的な地域住民、そしてやる気ある職員に囲まれながら、創立一三二年を迎える歴史ある本校に勤務できる喜びと責任を感じております。「河原子を愛し、かしく、心豊かたたくましい児童の育成」に向け、全力で取り組んでまいります。



日立・成沢小  
和田秀彦

PTA、子ども会育成会、おやじの会等、「オール成沢」で子供たちや学校を支える仕組みが充実している成沢小学区。職員も「チーム成沢」で一丸となり、地域の方々と同じ方向を向いて教育活動を実践。「地域とともにある学校」であるために、プロ集団としての教師力の向上は必須。まずは自分から…。



日立・諏訪小  
荒蒔克一郎

コロナ禍の中で、明るく元気になくましく生活する二七一名の子供たちを前にして、予測困難な時代、そして「Society5.0」のど真ん中を生きる子供たちに、主体性を尊ぶことを第一義に魅力ある教育活動を学校・保護者・地域と一体となって推進していきたいと決意を新たにしました。



日立・水木小  
前川敏彦

ラジオ体操の父、遠山喜一郎さんの母校である本校では、今日も元気な水木つ子とそれに負けないくらいの活力に満ちた教職員の笑顔が溢れています。「一人一人の笑顔が輝き、みんなの学ぶ心が響き合う学校」を目指し、学校・家庭・地域が一体となって、子供一人一人に向き合い、育てていきます。



日立・油縄子小  
窪木隆之

日立市の中央に位置し、太平洋に面した油縄子小学校は、日々二〇四名の児童の笑顔が輝いています。その姿を見ると、校長としての職責を強く感じます。「児童一人一人の自己有用感を高める『褒める・認める・勇気づける』を組織目標として、職員一丸となって、教育活動の充実を図ってまいります。



日立・日高小  
於曾能弘樹

明治六年創立の歴史と伝統を誇り、地域から愛される日高小  
学校に勤務できたことの喜びと  
校長としての職責の重さを実感  
しております。「考動力の育成」  
を合い言葉に、子供たち一人一  
人のよさが輝き、教職員がやり  
がいを感じ、保護者や地域の皆  
様が安心できる学校づくりに全  
力で取り組んでまいります。



日立・坂本小  
鈴木孝裕

歴史と伝統のある坂本小学校  
に勤務できる喜びとともに職  
責の重さを感じています。素直  
で元氣な三六四名の児童、熱意  
ある教職員、応援してくださる  
保護者の皆様に支えられながら  
「人に温かい」学校づくりを進  
めています。児童一人一人が輝  
く学校になるように日々全力で  
取り組んでまいります。



日立・中里小中  
横山宏栄

山間を緑の風が渡る本校は、  
小中一貫教育に取り組む小規模  
特認校です。その職責を自覚す  
るとともに、新校舎移転の準備  
を進めています。本年度は、「自  
ら考え、共に取り組む」ことを  
重点とし、気付き・読み取る力、  
考え・伝える力、かわわり・成  
し遂げる力の育成を保護者・地  
域とともに進めてまいります。



日立・平沢中  
谷田部由実子

素直で優しい生徒と力のある  
教職員、協力的な保護者と地域  
力に支えられ、私の母校である  
平沢中学校に勤務できる喜びと  
職責の重さを実感しています。「夢  
や希望をもって未来を切り拓く  
生徒の育成」を教育目標に掲げ、  
小規模校のよさを生かして生徒一  
人一人がオンリーワンの存在とし  
て輝く学校づくりを目指します。



日立・泉丘中  
大金茂樹

本校は海や山、名水百選の泉  
が森湧水など豊かな自然に囲ま  
れています。母校である泉丘中  
学校に赴任し、喜びと職責の重  
さを感じております。本校の教  
育目標「自らを高め、心豊かに  
力ある人になれ」を目指し、「凡  
事徹底」「自律」をキーワード  
に全職員で生徒一人一人に粘り  
強く関わってまいります。



日立・日高中  
藤田博隆

多くの皆様に支えられ、地域  
とともに歩んできた日高中学校  
に勤務できることに大きな喜び  
を感じています。  
「感謝と挑戦」をキーワード  
に、意欲と情熱に満ちた教職員  
三七名の力を結集し、三四三名  
の生徒一人一人が夢の実現に向  
かって力を発揮できる学校づく  
りを推進します。



日立・豊浦中  
菊地忠彦

東に太平洋、西に阿武隈山系  
を臨む小松ヶ丘の台地に位置す  
る本校は、自然環境に恵まれた  
地域とともにある学校です。勤  
務できる喜びとその職責の重さ  
を実感しています。何事にも前  
向きで誠実な教職員とともに、  
生徒たちが安心して学べる健全  
な学校づくりを目指して、全力  
で取り組んでまいります。



日立・十王中  
大谷勝一

豊かな自然の中で、温かい保  
護者や地域の方々に支えられ、  
生き生きと活動する生徒たちや  
何事にも意欲的な教職員。この  
環境の中で勤務できる喜びと職  
責の重さを実感しています。  
ふるさと十王を愛し、未来に  
向かって、心豊かにたくましく  
生きる生徒の育成を目指し、全  
力で取り組んでまいります。



常陸太田・佐竹小  
瀬尾 栄

創立一四八年という長い歴史  
に幕を閉じ、次年度統合となる  
大切な節目の年に、校長として  
赴任できたことに、大きな責任  
とやりがいを感じております。  
地域の教育力の高さに敬意を  
表し、子供たちの夢を育む魅力  
ある学校づくりに、教職員、保  
護者、地域の方々と一体となっ  
て尽力してまいります。



常陸太田・水府小中  
根本秀明

小中一貫教育校として四年目  
を迎えた本校に勤務できた喜び  
とともに、その職責の重さを実  
感しています。  
教育目標「ふるさと水府を愛  
し 夢に向かい自ら未来を拓く  
心豊かな児童生徒を育てる」  
の実現のため、家庭・地域と連  
携し、教職員一丸となって教育  
活動を推進してまいります。



北茨城・石岡小  
黒澤 祐一

歴史と伝統があり、自然に恵まれた石岡小学校に勤務できることに大きな喜びとともに責任の重さを感じております。

児童数一五名の小規模校のよさと強みを生かし、学校、保護者、地域が連携して、「明日が待ちどおしい皆の思いがあふれる学校づくり」に精一杯取り組んでまいります。



北茨城・関南小  
佐川 拓

感受性豊かで素直な子供たち、温かく協力的な保護者や地域の方々、正に「チーム」を体現している一体感のある教職員……こんな素晴らしい関南小学校に勤務できる幸せを、日々実感しております。常に子供の目線に立ち、「一人一人が主人公」となる学校づくりに邁進してまいります。



北茨城・平潟小  
遠藤 貞

明るく素直な子供たちと熱意ある教職員、協力的な保護者、地域の方々に支えられ、歴史ある平潟小学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じています。

子供たちが「学校に来てよかったと実感できる学校」となるよう、「聴いて認めてほめて育てる教師」集団を目指し、一丸となって取り組んでまいります。



# 県東

鹿嶋市  
神栖市  
鉦田市  
潮来市



鹿嶋・鉦形小  
太田 雄介

豊かな自然環境に恵まれ、地域との連携・協働が根ざしている鉦形小学校に赴任することができ、大きな喜びとともに職責の重さを感じております。

「子供が主役となり、学校・家庭・地域がみんな笑顔でつながる」ことをスローガンに、全職員が一丸となり、取り組んでまいります。



鹿嶋・高松中  
山本 勇

創立七五年目を迎えた本校の教育目標は「豊かな学びを創造し、地域とともに伸びる高松っ子」です。この目標を達成するために特色ある五つの学びの充実に努めています。

また地域の特性を十分に活用して小中一貫教育を推進し、九年間の学びを見通した学校づくりに全力で取り組んでいます。



鹿嶋・大同西小  
樋口 洋美

西に北浦を臨み、恵まれた自然環境の中、伸び伸びと学校生活を送る児童、児童のことを第一に考え職務にあたる教職員、とても協力的な保護者や地域の方々。このような環境の中で勤務できることに喜びと責任の重さを感じています。「笑顔あふれる学校」づくりに、全力で取り組んでまいります。

明るく素直な子供たち、協力的な家庭や地域に囲まれ、熱意ある教職員とともに「軽野の子」の笑顔のために「楽しい学校づくりに全力で取り組んでまいります。



神栖・軽野小  
大槻 憲永

創立一三五年目を迎える歴史と伝統のある軽野小学校に勤務できる喜びとともに、その職責の重さを実感しております。

明るく素直な子供たち、協力的な家庭や地域に囲まれ、熱意ある教職員とともに「軽野の子」の笑顔のために「楽しい学校づくりに全力で取り組んでまいります。



神栖・波崎西小  
大里俊一

明治九年創立の歴史と伝統ある波崎西小学校一六四名の子供たちとの出会いに、喜びと職責の重さを実感しています。

これまでのよさを継承しつつ、絶えず「change」積極的な変化・改革」を心がけ、今以上に子供たち・教職員の笑顔が輝き、家庭・地域から愛される学校づくりに全力で取り組みます。



神栖・太田小  
星野照明

歴史と伝統ある太田小学校に赴任できたことを誇りに思うと同時に職責の重さを感じ、気持ちを引き締めています。経営のスローガン「ONEチャレンジ何かひとつ」を掲げ学校づくりに取り組みます。よりよい児童の成長のために、学校・家庭・地域が一体となり、持続可能な教育活動の実現に挑戦します。



神栖・やたべ土合小  
池田尚人

明るく礼儀正しい子供たち、協力的な保護者や地域の方々、何事にも前向きな教職員に支えられ、統合四年目の本校に勤務できることの喜びと重責を実感しております。

学校に関わる人々との協働精神のもと、子供たちの可能性を伸ばしていけるよう、精一杯学校経営に努めてまいります。



神栖・波崎二中  
河野貞夫

素直で明るい生徒たち、熱意あふれる教職員、学校を信頼し協力してくださる保護者や地域の方々に囲まれ、勤務できることに、感謝とともに責任の重さを感じております。「磨き合い・響き合い・高め合い、笑顔あふれる学校づくり」を合い言葉に、全職員で一丸となつて取り組んでまいります。



神栖・波崎三中  
郡司一彦

創立七五年を迎える歴史と伝統ある波崎三中に、再び勤務できる喜びと、その重責を痛感しています。

「自ら学び、心豊かで、活力に満ちた生徒の育成」を目指し、地域・保護者の皆様の協力を得ながら、子供たちも教職員もそれぞれのがさが発揮できる学校づくりに全力で取り組みます。



鉦田・旭南小  
大崎雅之

温かな地域に見守られ育まれている旭南小学校。素直で思いやり深い子供たちと誠実な教職員との毎日に、充実感とともに重責を感じております。よき伝統を受け継ぎながら、更によりよい学校となるよう「自ら考え行動できる児童」の育成を目指して、教職員とともに全力で取り組みます。



鉦田・鉦田北小  
中澤 浩

明るく素直な児童たちと協力的な保護者や地域の方々、意欲的な教職員に支えられ、統合先進校であり、創立六年目の鉦田北小学校に勤務できる喜びと責任の重さを感じています。「力強い・確かな成長」を合い言葉に、

未来に向かって明るくたくましく学び続ける子供の育成に全力で取り組んでまいります。



鉦田・旭中  
寺内久永

「あ・さ・ひ」を一字ずつ冠した「あかるく さわやか ひたむきに」をスローガンに、生徒ははつらつと学校生活を送っています。本校教育目標「自ら学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を具現化できるよう、教職員・保護者、地域の方々とともに、生徒一人一人を大切に育てていきたいと思ひます。



潮来・延方小  
西谷京子

学校のシンボル「がんばり松」に見守られ、地域の愛に包まれて育つ延方の子。母校に勤務できる幸せをかみしめるとともに、統合一年目・新たなスタートに重責を感じております。

子供の姿に学び、保護者や地域の声に耳を傾け、熱意ある職員と共に、笑顔のあるあたたかい学校づくりに取り組みます。



潮来・日の出小  
神取克英

明るく元気な三二五名の児童、熱意ある教職員、温かく見守り応援してくださる保護者や地域の方々々に囲まれ勤務できることに、喜びとともに職責の重さを感じています。「一人一人がもっている力を最大限に発揮し、共に成長していく学校」を目指して、教職員一丸となり全力で取り組んでまいります。



潮来・牛堀小  
篠塚一典

校訓「かがやく笑顔」潮来市立牛堀小学校二二一名の子供たちとの出会いに喜びを感じています。

教育活動のスローガンは「元氣・本気思いやり・そして笑顔」です。保護者、地域の方々からご協力をいただき、子供、教職員が最大限に発揮されるよう全力で取り組みます。



潮来・牛堀中  
小島 剛

のどかな田園風景に囲まれ、生徒の明るいあいさつと笑顔の絶えない牛堀中学校で勤務できることを幸せに感じます。協力的な保護者や温かく支えてくれる地域の方々と、共に手を取り合って学校づくりをしてまいります。郷土愛を育みながら「夢に向かって努力する生徒の育成」に全力で取り組みます。

県南

- 土浦市 守谷市
- 石岡市 稲敷市
- 龍ヶ崎市 かすみがうら市
- 取手市 つくばみらい市
- 牛久市 稲敷郡
- つくば市 北相馬郡



土浦・右衾小  
中山 弘

地域の強い熱意により、右衾小学校は昭和五四年に開校しました。その後、地域の方々と共に学校運営を行いながら、地域に根ざした学校へと発展してきました。これからも至誠の精神を常に抱きながら、社会に開かれた教育課程の実現を図り、賢く強く和やかな子供たちの育成に努めてまいります。



土浦・菅谷小  
稲生文字

統合二年目を迎えた菅谷小学校ですが、保護者や地域の方々の温かい支援に感謝しながら勤務しております。全児童を預かる職責の重さを実感しながらも笑顔と自分らしさを失わずに今後も取り組んでいきます。「認め合い、高め合う」姿勢を全職員で共有し、すべては子供たちのために漸進していきます。



石岡・府中小  
飯田 修

創立七七年の歴史と伝統ある府中小学校に勤務できることの喜びとその職責の重さを実感しております。児童の可能性や向上心を大切にしながら、「一人一人が輝く夢と活力にあふれた楽しい学校」の実現のために教職員・保護者・地域の皆様の力を合わせて全力で取り組んでまいります。



石岡・三村小  
坂本功一

緑豊かな素晴らしい環境、学校を愛し応援してくださる保護者・地域の皆様、明るく素直な児童たち六三名に迎えられ、勤務できますことの幸せと職責の重さを実感しております。「夢と活力にあふれた楽しい学校」の実現に向け、学校内外の力を結集し、全力で取り組んでまいります。



石岡・杉並小  
小松智樹

石岡市立杉並小学校は、創立四三年、三〇九人の児童が通う学校です。校舎には歌声があふれ、校庭では上級生と下級生が一緒に遊ぶなど、いつも笑顔があふれています。今後も児童と保護者・地域、教職員に、「杉並小学校でよかった!」と思ってもらえるような学校づくりを進めてまいります。



石岡・東成井小  
栗山成孝

創立一四〇年の歴史と伝統のある東成井小学校に勤務できることに、喜びと共に職責の重さを感じています。「心身共に豊かで生き生きと学ぶ児童の育成」を教育目標とし、一人一人の子供たちのために、学校・家庭・地域の絆を深め、子供が輝く学校づくりを目指し、全力で取り組みます。



石岡・恋瀬小  
鶴巻 仁

加波、板敷、吾国、難台の山々に囲まれ、恋瀬川の源流に位置する本校の財産は、素直で礼儀正しい子供たち、協力的な保護者と地域の方々、そして「すべては子どものために」を motto に職務に励む教職員です。「二人一人が輝く、笑顔あふれる学校」づくりのため、ワンチームとなって全力を尽くします。



龍ヶ崎・大宮小  
北澤 宏

創立一四七年目を迎える歴史ある大宮小学校では、地域に愛されている八四人の子供たちが、人間性豊かな職員とともに元気に学んでいます。「一人一人を大切に 笑顔あふれる学校づくり（児童も職員も）」の実現に向けて、校長として全力を尽くしてまいります。



龍ヶ崎・八原小  
四位 悟

「おはようございます」毎朝児童と教職員の明るい声で始まる八原小学校。伝統ある本校に勤務する喜びと責任を感じています。本校には「思いやり」と「自分から」というキーワードがあります。全職員で力を合わせ、人を思いやる心と探究心をもち、主体的に行動できる児童の育成に邁進してまいります。



龍ヶ崎・川原代小  
永野広樹

今年で創立一三三年目を迎える歴史と伝統ある川原代小学校に勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。

校歌に「夢も明るし」「未来担わん」という言葉があります。学校・家庭・地域が連携し、子供たちが郷土に誇りを持ち、広い世界に羽ばたいていけるよう、全力を尽くしてまいります。



龍ヶ崎・松葉小  
糸川 宏

「仲間とは ともに笑って助け合う」これは松葉小の子供たちが作った今年度のスローガンです。本校は、創立四〇周年を迎える全校児童一八八名の学校です。子供たち一人一人に合った指導を実践し、子供たち一人一人が良さを発揮し、子供たちの笑顔・夢・自信が溢れる松葉小を目指します。



龍ヶ崎・城西小  
菊地 耕

「夢や希望をもち、たくましく生きる児童生徒の育成」

これは、城西中学校区の教育目標です。社会が大きく変わる現在、子供たちが夢や希望をもって社会に大きく羽ばたけるよう、不易と流行をしっかりと見極め、教職員と保護者、地域の方々と協力しながら全力で教育活動に取り組んでまいります。



取手・永山小  
園山和彦

明るく元気な三二八人の児童と、温かく協力的な保護者や地域の方々に囲まれて、伝統ある永山小学校に勤務できることに幸せを感じております。尊敬する先輩の校長先生から学んだ「一の徹底、皆の深化」「機関車から新幹線へ」という経営理念を胸に、職員一丸となって取り組んでまいります。



取手・寺原小  
木村忠夫

創立九五年目を迎える、歴史と伝統ある寺原小学校に校長として勤務できることに感謝するとともに、その職責の重さを実感しています。

「みんなで創ろう 笑顔あふれる寺原小」を合い言葉に、地域・保護者の皆様の協力をいただきながら、教職員一丸となって取り組んでまいります。



取手・六郷小  
中蔦政明

明治二二年創設の歴史ある六郷小学校に着任し、先輩方が築いてきた伝統を引き継ぐ責任に身が引き締まる思いです。明るく元気な九〇名の児童と児童に愛情を持って向き合う教職員と共に「自ら考え、判断し、主体的に実践できる心豊かな児童の育成」を目指して取り組んでいきます。



取手・宮和田小  
伊藤 誠

宮和田小学校には二度目の赴任になります。藤代駅周辺の新興住宅地と緑あふれる田園風景が調和し、家庭も地域も大変協力的で私の大好きな学校です。

一人一人を大切に、「笑顔が つながる学校づくり」を合い言葉に、学校と家庭、地域が「チーム宮和田」として協働していけるように尽力していきます。



取手・桜が丘小  
萩野谷孝雄

「桜が丘」の名のとおり、桜並木が美しく、環境に恵まれた学校です。桜が丘小学校に赴任できた感謝と共に重責を感じております。「心身共に健康で 確かな学力を身に付け 心豊かでたくましい児童の育成」を目指し「チーム桜が丘」で取り組んでいきます。



取手・戸頭中  
額賀敏行

取手市新しい学校教育三つの取組が生徒の充実した学校生活につながるよう全職員で実践しています。また、一人一台端末を活用して積極的に授業を公開する先生方と共に個別最適化された学びの実現に努めています。創立四一年の伝統を守り、戸頭中生の健全な成長のために全力で取り組んでいきます。



牛久・中根小  
豊嶋正臣

温かな保護者や地域の方々に支えられ、誠実で熱心な職員と、素直で明るい一九五名の子供たちのいる中根小学校に勤務できることに大きな喜びと責任を感じる毎日です。「授業で子供たちを幸せにする」ことを目指し、教職員一丸となって、「安心と夢中」のある学校づくりに取り組んでまいります。



つくば・小野川小  
戸江直美

創立一四二年を迎える地域に根ざした伝統校の小野川小学校で勤務することになり、緊張感でいっぱいでしたが、明るく温かい子供たちと教職員に励まされ、充実した日々を過ごしています。子供たち・教職員一人一人を大事にして、一人一人の笑顔が輝く学校づくりに全力で取り組んでまいります。



つくば・上郷小  
大高純子

筑波の峯を望む校舎、全面芝生の校庭、学校林。広大な敷地のそこかしこから、今日も子供たちの元気な声が響いてきます。関わった誰もが誇りに思い、ずっと関わり続けたいと願う誇り高き上郷小学校。その価値ある伝統を守り、子供たち一人一人が幸せな未来をひらけるよう学校づくりに邁進いたします。



つくば・二の宮小  
園田浩美

二宮尊徳から名付けられた地名「二の宮」。二の宮小も「アイデア」こそ力になると、児童・教職員・保護者・地域と目標や課題を共有し合い、児童自身のアイディアで学びや生活が創り出される姿を未来を切り拓く力に繋げてまいります。本校に関わる全ての人が活躍し輝けるよう、心を尽くします。



牛久・牛久小  
大高稔子

明治五年創立の伝統ある牛久小学校に赴任し、明るく元気で素直な子供たちと共に過ごせる喜びと責任を感じています。



つくば・桜南小  
木野逸美

創立一四六年の伝統あるつくば市立桜南小学校に勤務することができると喜びと、その重責に身が引き締まる思いです。素直で元気な三四六名の児童たち一人一人が、毎日充実した学校生活を送れるよう、そして、将来幸せな人生を送れるよう、地域・保護者の皆様や教職員と連携し、取り組んでまいります。



つくば・沼崎小  
江尻佳之

創立一四五年を迎えた歴史と伝統ある沼崎小学校に勤務できることに、喜びとともにその責任の重さを実感しています。本校の素直で明るい子供たちが、これからの社会で活躍できるように地域と学校が一丸となって「夢をもち 未来を創る学校づくり」を目指し全力で取り組んでまいります。



つくば・谷田部南小  
関美智子

早朝、交通指導をしてくださる保護者や地域の方への礼儀正しいあいさつの声が響きます。子供たちは地域の皆様に見守られ、大切に育まれています。地域の学校として、職員の協力的な輝翔学園内の連携を充実させ、保護者や地域の皆様と共に、児童の明るい笑顔のため、力を尽くしてまいります。



つくば・荃崎二小  
近藤恒重

今年もカルガモが本校の花壇で卵を産みました。昨年はカルガモの旅立ちを見送り、今年も卵からかえるのを優しく子供たちは見守っています。豊かな自然に恵まれた環境の中で、地域とともにある学校を目指し、保護者、地域の皆様と児童の笑顔あふれる学校づくりに取り組めます。

大切な「うしくっ子」一人一人の健やかな成長のために、教職員、保護者、地域が連携し、「共に学び、共に育つ喜び」を味わえる学校づくりに全力で取り組みます。

携し、取り組んでまいります。

取り組んでまいります。

取り組んでまいります。

取り組んでまいります。





守谷・大井沢小  
板谷亜由美

元気で明るい児童と活力あふれる教職員、いつも温かく学校を支えてくださる保護者と地域に囲まれた大井沢小学校に勤務できることに幸せをかみしめています。

「安心できる学校づくり」をめざし、教職員、保護者、地域と一体となって取り組んでまいります。



守谷・大野小  
高野香保里

創立一三一年の伝統ある大野小学校に勤務できる喜びと校長としての重責に身の引き締まる思いです。一方で、児童の笑顔や真摯に取り組む教職員、そして温かな地域の皆様に囲まれ、幸せを感じる日々でもありません。児童が生き生きと活躍できる学校を目指して、教職員全員で力を尽くしてまいります。



守谷・御所ヶ丘小  
野口和彦

今年で創立四〇年目を迎えた本校は「児童が主役」を合い言葉に保護者、地域、教職員が協力し合いながら新しい時代の学校づくりを進めております。明るく知的で優しい三三三名の子供たちと優秀な教職員とともに、元気なあいさつとすてきな笑顔があふれる学校づくりに取り組んでまいります。



守谷・愛宕中  
勝村和之

愛宕神社に見守られ、創立三九年目を迎える愛宕中学校で、四六四名の生徒とともに過ごせることの喜びと、職責の重さに身の引き締まる思いです。「感動・夢・挑戦」をテーマとして、笑顔あふれ、家庭・地域から信頼される学校づくりを目指し、教職員一丸となって取り組んでまいります。



稲敷・沼里小  
小松原剛

創立一四六年目を迎える歴史と伝統ある沼里小学校に勤務できることに職責の重さを実感し、身の引き締まる思いで日々勤務しております。「あいさつ名人、やさしさ案内人、がんばりの鉄人」の育成を目指し、全職員が一丸となって「全力投球」で、活力に満ちた学校づくりに取り組んでまいります。



稲敷・あずま西小  
浅野 剛

あずま西小学校は創立一三二周年を迎える歴史ある学校です。「理解・信頼・協力の関係づくりから」「子供が主役」を掲げ、「笑顔・あいさつ・自分から」を合言葉に、子供たち一人一人がいきいきと活動し、地域に愛され、地域と共にある学校づくりに取り組んでまいります。



かすみがうら・新治小  
福島 真

創立一四六年の歴史と伝統ある新治小学校で、明るく素直な九四名の児童と共に生活できることをうれしく思うと同時に、職責の重さを実感しています。今年度で本校は閉校ですが、「今日が楽しく、明日が待ち遠しい新治小学校」を目指して、全教職員と力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。



つくばみらい・小張小  
高栖弘明

創立一三七年の歴史と伝統ある小張小学校に赴任できた喜びとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いです。保護者や地域の方々温かく支えられている素直な六七名の児童全員にとって「笑顔と感動に満ちた明日が待たれる学校」となるよう職員とともに全力で取り組んでまいります。



つくばみらい・谷原小  
八木知則

豊かな自然と温かな地域の人々に囲まれて育った子供たち。創立七四年を迎える谷原小学校に赴任し、勤務できる喜びと職責の重さを感じています。児童、保護者、地域、それぞれの人と人とのつながりを大切に、「進んで学び 心豊かで たくましい」児童の育成を目指し、全力で取り組んでまいります。



つくばみらい・十和小  
宇津木千恵美

素直で優しい六〇名の子供たちと熱意ある教職員、そして協力体制の素晴らしい保護者や地域の皆様に支えられている十和小学校に勤務できる喜びと職責の重さを日々実感しています。「みんなが笑顔で元気に」を合言葉に、全職員で児童一人一人の健やかな成長を支援していきたいと考えています。



つくばみらい・福岡小  
渡部史恵

花壇いっぱい咲く色とりどりの花々は、素直で元気な子供たちを温かく見守っています。花のように輝く子供たちと学校を深愛の念で支えてくださる保護者、地域の皆様に感謝しながら、福岡の宝である八三名の子供たちの夢実現に向けて、教職員の資質向上と「ありがとう」がふれる学校経営に邁進します。



つくばみらい・富士見ヶ丘小  
中島嘉之

「教室はまちがうところだ」という共通認識に立ち、千名を超える児童一人一人が安心して物事に挑戦し、自己肯定感を高められるよう、全教職員で教育活動にあたっています。活力ある地域と協力的な保護者の皆様と手を携え、みらいを生きる子供を育てまいる予定です。



稲敷郡・安中小  
川嶋圭介

国指定史跡「陸平貝塚」に隣接する歴史と伝統文化、そして自然豊かな安中小に赴任できたことに喜びを感じております。児童・教職員とともに、「笑顔あふれる楽しい学校」をつくり、温かな保護者と地域の皆様の力をお借りしながら、新しい時代を生きるたくましい児童を育成してまいります。



稲敷郡・舟島小  
立見一郎

四季を通じて優しく校舎を見守る桜の木々と優美な霞ヶ浦の水面や筑波山を望む舟島小学校は、協力的な保護者や地域の方々に支えられています。一九七名の「ふなっこ」一人一人の「笑顔がキラリ輝く学校」を目指し、温かく情熱あふれる教職員とともに精一杯取り組んでまいります。



北相馬・文小  
友野和也

休み時間になると、元気に校庭を駆け回る子供たち。草刈りだけでなく美味しい漬物を届けてくれる地域の方。「先生たちがいいのなら」と、協力的なPTA会長。熱心で向上心にあふれ、明るく生き生きとした先生方。素敵な学校に赴任できたことに感謝し、精進していきます。



北相馬・利根中  
岡崎 学

町に唯一の中学校である利根中学校に、三度目の勤務となる幸せと、支え育てていただいた感謝を胸に、利根町に精一杯の恩返しをしていく覚悟です。「夢や希望をもち互いに学び続ける学校」を築いていくため、生徒と教職員、保護者、地域の方々が一体となった、「共創」の学校づくりを目指します。

県西

- 古河市
- 結城市
- 下妻市
- 常総市
- 筑西市
- 坂東市
- 桜川市
- 結城郡
- 猿島郡



古河・古河四小  
青木誠一

歴史と伝統ある古河第四小学校に着任し、その責任の重さに身の引き締まる思いです。保護者・地域の方々の力強い御支援をいただきながら、本校のスローガン「明るく、楽しい、きれいな学校」を目指し、四二六名の児童の笑顔があふれる学校となるよう、教職員一丸となり全力で取り組んでまいります。



古河・古河六小  
三田俊彦

新採のころから馴染みのある古河市立古河第六小学校に勤務できることに喜びを感じるとともに、日々責任の重さを実感しています。本校の教育目標「心身ともに健やかで、心豊かな児童の育成」を目指し、学校と家庭、そして地域が連携し「チーム六小」として全力で取り組めます。



古河・古河三小  
太田千秋

花いっぱいの整った環境、かわい子供たち、パワフルでやる気に満ちた教職員、協力的な地域・保護者の皆様に迎えられる本校に赴任しました。本校の教育目標「夢をもち 友達いっぱい 元気いっぱい 知恵いっぱい」の実現を目指し、児童と教職員それぞれの多様な輝きを引き出す学校経営に取り組めます。



古河・古河七小  
逆井 泉

毎朝、元気な子供たちとあいさつを交わすことから一日が始まり、古河七小に赴任できたことを心から感謝しています。愛情をもって子供に向き合う教職員、協力的で温かい保護者や地域の皆様とともに「どの子も認められ、大切にされる学校づくり」を目指して、全力で取り組んでまいります。



古河・下大野小  
井上 徳伸

創立一三二年目を迎える歴史と伝統を受け継ぐ本校に赴任できましたことに、喜びと職責の重さを実感しております。地域の皆様にあされ、ともに歩んできた本校。開校以来の校訓「勤労・自治・至誠」を実現すべく、「笑顔が一番」を本年度の合い言葉に、職員一丸となって取り組んでまいります。



古河・小堤小  
横倉 政宏

明治二二年創立の歴史と伝統のある小堤小学校に勤務できる喜びと、職責の重さを実感しております。学校のシンボルである椎の木にちなみ、「つかり学び 図つても仲良し 図びのび育ち 図ようも学校が楽しい」を合い言葉に、保護者・地域と協力し、全職員で児童の健全育成に努めてまいります。



古河・駒羽根小  
三浦 利江

歴史と伝統ある古河市の中で、新たな息吹を感じる駒羽根小学校に勤務できる幸せと職責の重さを実感しております。心優しく笑顔満載の子供たち、一人一人に真摯に向き合う教職員、何事にも協力的な保護者や地域の皆様。その方々と「魅力あふれる学校づくり」を目指し、全力で取り組んでまいります。



古河・水海小  
石塚 邦彦

明るく素直な一八三名の子供たち。温かく学校を支えてくれる保護者や地域の方々。歴史と伝統ある水海小学校に勤務できることに大きな喜びと職責の重さを感じています。児童一人一人が学ぶ楽しさと成長を実感できる学校を目指し教職員と一丸となり、魅力ある学校づくりに尽力します。



古河・八俣小  
小神野 剛志

明るく素直な三五三名の児童、学校を愛し応援してくださいる保護者・地域の方々。一三七年目を迎える八俣小学校に赴任し、大きな喜びと職責の重さを実感しております。「図さしい子 図なぶ子 図くましい子」を合い言葉に、「よさがこだまする」学校づくりを教職員一丸となって目指してまいります。



古河・総和北中  
久下 典子

一九二名の素直な生徒たち、熱心な教職員、協力的な保護者や地域の皆様に支えていただきながら勤務できる喜びとその職責の重さを実感しております。「輝く未来のために総和北中」をキャッチフレーズに、生徒も教職員も「明日も学校に行きたいと思える」魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。



古河・三和中  
福田 恭子

出会いはいつも不思議です。縁あって出会った三和中の生徒、保護者、地域の方々、そして教職員一人一人のよさを生かして、大切にします。応援してくださる皆様に感謝し、「百花繚乱・全員で咲かせ笑顔の花」の合い言葉の実現に向け、まず自ら笑顔で、皆の幸せのために校長として精一杯努力します。



古河・三和北中  
田 神 昭

伝統ある三和北中に赴任し、素直な生徒たちや情熱をもった教職員、温かく協力的な地域の方々に出会い、喜びと職責の重さを実感しています。念願であった中学校勤務になり、大変嬉しく思っています。「生徒や教職員が輝く学校」「信頼される学校」を目指して、全職員一丸となって取り組んでまいります。



古河・三和東中  
山崎 英男

「自立・英知・創造」の校訓のもと、創立三五年目を迎えた伝統ある本校に勤務できることへの喜びと職責の重さを強く感じております。素直で明るい生徒たちと熱意に満ちた先生方とともに「笑顔・あいさつ・感謝」を合い言葉に、地域や保護者から応援される温かい雰囲気のある学校を目指してまいります。



結城・江川北小  
中山和彦

毎朝、保護者が登校指導をしてくださり、子供たちは一列に並んで登校してきます。

温かく協力的な地域・保護者に感謝するとともに、純粋な子供たちの豊かな学びを実現する責任の重さを感じています。

児童と教職員が他者を認め、自分のよさを発揮できる学校づくりを進めてまいります。



結城・上山川小  
村田則文

明るく素直な子供たち、温かく学校を見守ってくださる保護者や地域の皆様。そして、熱意あふれる教職員。上山川小学校に勤務できる喜びと職責の重さを痛感しております。

「子どもも 保護者も 先生も 通いたくなる学校」を目指して、三位一体で、全力で取り組んでまいります。



下妻・総上小  
圓崎佳江

歴史と伝統ある総上小学校に再び勤務できる喜びと職責の重さを日々実感しております。

熱意ある教職員、常に学校を応援し、温かく支えてくださる保護者や地域の方々とともに、

ふれ合い、支え合い、感謝し合い、みんなで力を合わせ、子供たちの笑顔があふれる学校づくりに取り組んでまいります。



下妻・豊加美小  
稲川辰也

創立一三二三年の伝統を誇る自然豊かな豊加美小学校に赴任し、喜びと責任の重さを実感しております。

素直で明るい子供たちと協力的な保護者や地域の方々に支えられ、やる気に満ちた教職員と「ONE TEAM 豊加美」を合い言葉に、笑顔あふれる学校づくりを進めてまいります。



常総・大生小  
本橋正雄

明治二三年創立以来、地域と共に歩んできた大生小学校へ赴任し、大きな喜びと職責の重さを実感しております。

コロナ禍ではありますが、校歌の歌詞「ここに学んで 大きく明るく 伸びゆくわれら」を実現できるようにするために、

人を大切にする学校づくりに全力で取り組んでまいります。



常総・大花羽小  
西山 力

素直で元氣な子供たちと協力的で温かな保護者と地域の方々に支えられ、伝統ある大花羽小学校に勤務できることに喜びと職責の重さを感じています。

学校教育目標の具現化に向けて、合言葉「やってみよう!」を掲げ、児童、教職員が居心地のよい、笑顔あふれる学校づくりを目指してまいります。



常総・豊岡小  
桑原えみ

創立一三五年の歴史と伝統ある豊岡小学校に赴任し、その職責の重さを日々感じています。

子供たちが「通いたい学校」、保護者が「通わせたい学校」、地域が「応援したい学校」、教職員が「勤めたい学校」、そして皆が「誇れる学校」を目指して、教職員と共に全力で取り組んでまいりたいと思います。



筑西・養蚕小  
太田雅彦

豊かな自然と伝統あるこの養蚕小学校で、元氣な子供たち、まっすぐな教職員、そして、温かい地域の皆様と出会えたことは、この上ない喜びです。

一人一人の「認められたい」という思いを大事にしながら、自ら考え、自ら行動できる子供たちを育ててまいります。今日も、明日も、やります。



筑西・中小  
堀江徳三

子供たちとの会話で印象に残っていることがあります。『授業は間違ってもいい所、間違ってもみんながフォローしてくれる』。『この後にすぐ汚れても、みんなが使ってるから、やりがいがある』子供たちとの会話が本心に楽しみな毎日です。子供たちのより豊かな成長を目指し

今後も努力してまいります。



筑西・関城西小  
石川 剛

東に筑波山を臨み、白い梨花が一面に咲き乱れる、創立一四七年の長い歴史と伝統のある関城西小学校に勤務できる幸せと責任を感じております。

校訓にある「かしこく なかよく たくましく」生きる子供たちを育めるよう、保護者・地域の皆様とともに、全職員一丸となつて取り組んでまいります。



筑西・村田小  
岩見喜市

筑波山を望む吉間の大地にある、歴史と伝統ある村田小学校に勤務できる喜びと、責任の重さを実感しております。

「未来を拓く、明るい、たくましい村田っ子の育成」を目指し、保護者・地域・教職員が一丸となって、一人一人の良さを伸ばせるよう、全力で取り組んでいます。



筑西・小栗小  
平原 満

創立一四八年の歴史と伝統のある小栗小学校に赴任できたことに喜びを感じるとともにその職責の重さを感じております。

「学びいっぱい やさしさいっぱい 力いっぱい」を合い言葉に一二六名の児童とスタートしました。保護者、地域の方々と連携し、笑顔があふれる学校づくりに取り組んでいます。



筑西・下館北中  
角田真弓

豊かな自然に恵まれ、地域の方々の温かな思いに支えられている全校生徒八五名の小規模校ですが、歴史と伝統のある文武両道を目指したすばらしい学校です。令和五年に隣接校と統合されますが、素直で優しい生徒たちが未来に向かってたくましく成長できるように全職員で力を合わせ取り組んでいます。

豊かな自然と協力的で温かな保護者・地域と共に伝統を積み重ねてきた七重小学校に着任し、幸せと同時に職責の重さを日々実感しております。



筑西・鳥羽小  
助川典子

素直で明るい子供たち、子供たちのために熱心に務める職員、学校に協力的な家庭や地域と緑豊かな自然、この恵まれた環境の中で勤務できることに喜びと職責の重さを痛感しております。

学校の強みを生かし、「全職員が全児童の担任」を合い言葉に、学校教育目標達成に向け、使命感をもって全力で取り組みます。



筑西・下館西中  
木村厚夫

保護者や地域の皆様にあたたかく見守られる中、熱意ある教職員と明るく素直な三四九人の生徒との出会いに感謝を深める毎日です。

「高い志と思いやりの心をもつ、たくましい生徒の育成」を目指して、教職員と手を携えながら、生徒が主役の学校づくりに取り組んでいます。



坂東・七重小  
澤 勝彦

「友達大好き、運動大好き、わかるの大好き、七重っ子」の教育目標を掲げ、児童の健全な成長のために七重小ワンチームで取り組んでいます。

豊かな自然と協力的で温かな保護者・地域と共に伝統を積み重ねてきた七重小学校に着任し、幸せと同時に職責の重さを日々実感しております。



坂東・内野山小  
鈴木清子

昭和三五年に内野山小学校として独立した本校は、地域の学校として、地域の住民に愛され支えられ続けています。その地域と未来から五五名の明るく素直な子供たちを預かりました。

「自ら学び、心豊かにたくましく生きる子供が育つ」学校を目指し、職員一丸となって取り組んでいます。



坂東・猿島中  
松崎 巧

明るく素直な生徒たち、熱意ある教職員、温かく学校を支えてくださる保護者・地域の皆様。猿島中学校で勤務できる喜びと職責の重さを感じています。

教育目標「感謝の心で主体的に行動し豊かに表現できる生徒の育成」に向け、保護者・地域の皆様と一丸となって取り組んでいます。



桜川・南飯田小  
綿引利雄

雄大な山々に囲まれた自然豊かな南飯田小は、創立一四八年の歴史と伝統ある小学校です。素直な子供たちや協力的な保護者・地域の方々、誠実な教職員との出会いに、喜びと職責の重さを感じています。

「笑顔いっぱい ワクワクみなみ」をキャッチフレーズに、学校経営に邁進いたします。



結城郡・西豊田小  
安藤一彦

校章にあしらわれ、シンボルでもある「せんだんの木」がそびえる西豊田小学校に勤務できる喜びとともに、責任の重さを実感しています。

「笑顔あふれるワクワク西小」を合い言葉に、子供たちが通いたい、保護者が預けたい、教職員が勤めたいと思える学校づくりに全力で取り組みます。



猿島・静小  
染谷広美

素直で明るい九八名の静の子供たち。その子供たちに愛情をもって向き合う教職員。そして、温かく協力的な保護者や地域の方々。この静小学校に勤務できる喜びと職責の重さを日々実感しています。子供たちが「夢を育み夢に近づくために」、一人一人を大切にしたい学校づくりに全力で取り組んでまいります。

再任会員名簿

Table with 17 columns (No. 1-16, No.) and 3 rows (郡市名, 学校名, 氏名). Lists members like 稲敷郡, 水戸市, 常陸太田市, etc.



教育プラザ いばらき

(敬称略)

Table with 9 columns (No. 24, 23, 22, 21, 20, 19, 18, 17, No.) and 3 rows (郡市名, 学校名, 氏名). Lists members like 猿島郡, 桜川市, 筑西市, etc.

令和三年度 学校長会役員

- 会長 大塚 昌弘 (水三の丸小)
副会長 内田 和子 (水・第一中)
副会長 鈴木 稔 (常太・太田小)
副会長 安藤 光弘 (神栖第4中)
副会長 岩田 利美 (石・石岡中)
副会長 町田 裕行 (結・絹川小)
監事 安島 可子 (水・千波中)
監事 根本 幸恵 (常太・久米小)
監事 山中 秀裕 (神・大野原小)
監事 平田 豊 (土・都和中)
監事 吉田 幹夫 (常三妻小)



- 上段左より...
町田裕行副会長、鈴木稔副会長、安藤光弘副会長
下段左より...
岩田利美副会長、大塚昌弘会長、内田和子副会長

令和三年度 (一財)茨城県教育センター (教育プラザいばらき内) 職員

- 理事長 東小川昌夫
副理事長 坂場 克身
事務局長 木村 明弘
主幹(校長会担当) 川又 宏文
主幹(研究会担当) 磯崎 則男
主幹(教育センター担当) 石島久美子
主幹(校長会・研究会担当) 佐々木有香
どうぞよろしく願いいたします。

編集後記

令和三年度、コロナ禍二年目のスタートとなりました。義務教育課副参事の田辺先生の玉稿、新会員一四四名の皆様のお言葉等を掲載し今年度の第一号を発行することができました。学校組織の活性化と人材育成、働き方改革・新しい生活様式を基本とする教育活動など学校における様々な課題を解決するための一助となる紙面作りに編集委員一同、努めてまいります。年度初めのご多用の中、原稿をお寄せいただきました皆さまに心より感謝申し上げます。(大和田)